

東北環境パートナーシップオフィス 運営第6期

令和4年度 事業実施報告書

運営第6期：令和4年度（2022年度）～令和6年度（2024年度）



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku



東北地方
ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development



公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）

目次

I .EPO 東北 運営期ごとの記録		
1. 運営期と主な出来事		P4
2. EPO 東北事業の変遷		P6
3. 情報発信の記録		P11
II . 事業計画		
1. 運営第 6 期 中期事業計画		P18
2. 令和 4 年度 事業計画		
(1) 業務の目的と基本方針		P19
(2) 事業構成		P20
(3) 内容		P21
III . 事業報告		
1. 令和 4 年度 事業総括		P25
2. 事業実施一覧		P26
3. 出張・外出のべ日数		P30
4. 事業実施報告		
(1)EPO 東北業務		
1) 運営		
①東北地方環境事務所との協働		P31
②事業検討委員会の開催運営		P31
③施設の維持及び管理		P32
2) 基本業務		
①ウェブサイト等を活用した情報発信、PR		P32
②相談対応、対話の場作り及び過去案件のフォローアップ		P32
③全国事業に係わる業務		
③ -1. 全国 EPO 連絡会議		P33
③ -2. パートナーシップ捉え直しタスクフォース		P33
③ -3. 地球温暖化防止活動推進センター北海道・東北ブロック会議		P34
④地方 EPO ネットワークとの情報交換会		P34
3) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務		
①地域循環共生圏プラットフォーム事業に係る業務		P36
① -1. 環境整備支援<新規>株式会社アースカラー		P38
① -2. 環境整備支援<継続>米沢市		P39
① -3. 東北ブロック中間共有会		P40
① -4.GEOC が主催する会議等への参加		P40
① -5. 事業化支援団体の活動の情報共有		P42
① -6. 支援終了団体のフォローアップ調査		P43
②森里川海推進ネットワーク形成会合の開催		P44
② -1. 仙台市・多賀城市市民活動サポートセンターとの勉強会		P45
② -2. 生物多様性に関する情報発信		P45
③地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業		P46
③ -1. 七十七銀行 SDGs セミナー		P47
③ -2. あおもり中小企業のための ESG 金融・脱炭素経営に関するセミナー		P48
③ -3. 令和 4 年地域循環共生圏 ESG 金融フォローアップ研修会		P49
③ -4. パートナーシップ情報の授受等について		P49
④パートナーシップ団体情報交換会等の開催		P50
4) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化		
①みちのく薪びと祭り Stage2in 三瀬		P51

(2) 東北地方 ESD 活動支援センター業務		
1) 運営		
①企画運営委員会の開催運営等		P53
2) 基本業務		
① ESD 活動に関する相談及び支援窓口		P54
② ESD 活動に関する域内情報の収集及び域内外への情報提供		P56
③地域循環共生圏への協力及び全国センターとの連携協力の推進等		P56
③ -1. 全国センター企画運営委員会		P56
③ -2.ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会		P56
③ -3.ESD 全国フォーラム		P57
③ -4.ESD 全国ネットワーク団体意見交換会		P58
③ -5.ESD 推進ネットワーク可視化タスクフォース		P58
③ -6. 環境省環境教育推進室 意見交換		P58
④地域 ESD 活動推進拠点等の ESD 活動の支援		P59
3) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供		
① ESDfor2030 学び合いプロジェクトの実施		P60
4) 東北 ESD / SDGs フォーラムの開催		
①東北 ESD / SDGs フォーラムの開催		P64
5)ESD 活動に関するネットワークの構築		
① ESD 地域研修会の実施		P67
① -1. 秋田県大仙市立大曲南中学校ワールドピースゲーム		P68
① -2.ESD 実践校交流会		P69
① -3. 宮城県内環境施設との意見交換会		P69
① -4. 山形県山形市立千歳小学校キリバス講演会		P70
② ESD 地域コーディネーター		P71
(3) その他 企業等との協働事業		
1)（独）環境再生保全機構 地球環境基金との事業連携		P73
2)GreenGift 地球元気プログラム		P73
3) 青森県 令和4年度環境配慮行動拡大モデル事業		P76

【Ⅰ .EPO 東北 運営期ごとの記録】 1. 運営期と主な出来事

Ⅰ -1. 運営期と主な出来事

期	運営団体	年度	主な出来事	
			EPO 東北 主な出来事	社会の出来事
第 1 期	NPO 法人 水環境ネット 東北	平成 18 年度 (2006)	EPO 東北 開設	国連 ESD の 10 年 (2005 ~ 2014 年)
		平成 19 年度 (2007)		
		平成 20 年度 (2008)		
		平成 21 年度 (2009)		
第 2 期		平成 22 年度 (2010)	生物多様性条約第 10 回締約国会議 生物多様性交流フェアブース出展	- 愛知目標 (2011 ~ 2020 年) - 東日本大震災 (2011/3/11)
		平成 23 年度 (2011)	「3.11 あの時」ヒアリングスタート 	国連生物多様性の 10 年 (2011 ~ 2020 年) 
		平成 24 年度 (2012)	「3.11 あの時」レポート冊子化 - 伴走支援型事業「環境 NPO 等ビジネスモデル策定事業」(H24 ~ 25)	国連持続可能な開発会議
第 3 期	公益財団法人 みやぎ・ 環境とくらし・ ネットワーク (MELON)	平成 25 年度 (2013)	伴走支援型事業「協働取組の加速化事業」(H25 ~ H29)	三陸復興公園の創設とみちのく潮風トレイルの開通
		平成 26 年度 (2014)	- EPO 東北オフィス移転 - みちのく薪びと祭り開催 (H26 ~ R 元年) 	- ESD ユネスコ世界会議 (愛知県) - グローバル・アクション・プログラム (GAP) (2015 ~ 2019 年) 
		平成 27 年度 (2015)	「3.11 あの時」事例集発行	- 持続可能な開発目標 (SDGs) 採択 - パリ協定 採択
第 4 期		平成 28 年度 (2016)	地方 ESD 活動支援センター設置に向けた体制整備等検討業務	- ESD 国内実施計画策定 - ESD 活動支援センター 開設
		平成 29 年度 (2017)	東北地方 ESD 活動支援センター開設 	ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 
		平成 30 年度 (2018)	伴走支援型事業「環境課題と社会課題の同時解決事業」(H30 ~ R1) 	第 5 次環境基本計画で「地域循環共生圏」提唱 

期	運営団体	年度	主な出来事	
			EPO 東北 主な出来事	社会の出来事
第 5 期		令和元年度 (2019)	・みちのく薪びと祭り東北一巡達成 ・機関誌 EPO 東北通信の改定 	・新型コロナウイルスが世界中で広がる ・持続可能な開発のための教育：SDGs 達成に向けて（ESD for 2030）採択
		令和 2 年度 (2020)	・新型コロナウイルス感染防止措置の徹底 ・伴走支援型事業「地域循環共生圏プラットフォームづくり事業」(R2～5) ・オンライン会議／催事の開催	・ESD for 2030 (2020～2030 年) ・新学習指導要領スタート（小学校） ・政府が 2050 年までにカーボンニュートラルを目指すことを宣言
		令和 3 年度 (2021)	・ESD for 2030 学び合いプロジェクトの実施 (R3～) ・東北 ESD/SDGs フォーラム in あおもり開催	・脱炭素ロードマップ策定 ・第 2 期 ESD 国内実施計画策定 ・グラスゴー気候合意採択 ・新型コロナウイルス感染症変異株の流行
第 6 期		令和 4 年度 (2022)	・みちのく薪びと祭り 2 年ぶりの対面開催 ・収録型アーカイブ配信を試行 ・EPO ネットワーク内で「協働」を捉え直すタスクフォース立ち上げ 	・30by30 ロードマップの策定 ・地球温暖化対策推進法の改正 ・2050 年カーボンニュートラル実現を法律に明記 ・国際目標「30by30」採択 
		令和 5 年度 (2023)		
		令和 6 年度 (2024)		

【Ⅰ .EPO 東北 運営期ごとの記録】 2.EPO 東北事業の変遷

運営第 2 期			
	H22 (2010) 年度	H23 (2011) 年度	H24 (2012) 年度
EPO東北 独自事業	主催型 シンポジウム フォーラム	交流会型事業へ 再生可能エネルギー交流会 	再生可能エネルギー交流会①② 
	H23 (2011) 年 3月11日(金) 14時46分 東日本大震災 ・ 1 週間閉館／スタッフ自宅待機 ・ 3/22 ～出勤 - 各家庭の状況確認 - 事務局体制、勤務について協議 - 東北地方環境事務所と対応協議 	現場踏査・ヒアリング ↓ ・ Web サイト特設ページ開設 ・ 3.11 からの学びの記録・発信 	継続 冊子化①  
環境省伴走支援事業、他	COP10 生物多様性交流フェア ブース展示 	復興支援活動のマッチング グリーンサンタ® 被災小学校・幼稚園訪問 	環境 NPO 等 ビジネスモデル策定事業 【宮城】NPO 法人東鳴子ゆめ会議 【宮城】NPO 法人日本の森 バイオマスネットワーク 

運営第3期

H25（2013）年度

H26（2014）年度

H27（2015）年度

事業連携の模索

地域開催型へ

EPO東北
独自事業

分科会

テーマ「薪」
テーマ「BDF」

EPO 間連携

再生可能エネルギー交流会 in 広島

中間支援組織交流会 in 宮城



みちのく薪びと祭り

第1回 in 山形さんぜ

第2回 in 岩手とおの

再生可能エネルギー交流会 in 福岡

中間支援組織交流会 in 広島



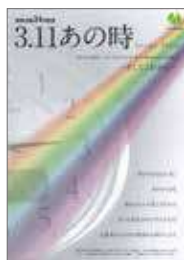
再生可能エネルギー交流会 in 四国

中間支援組織交流会 in 関東



現場踏査・ヒアリング

冊子化②



追加ヒアリング

冊子化③



事例集
「3.11 あの時
教訓事例集
- 中間支援組織
1年間の後方支援活動
の記録 -」

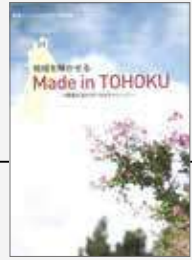


東日本大震災対応

EPO 間連携による 3.11 語り部派遣事業

ESD 学びあいフォーラム in 沖縄

ESD 学びあいフォーラム in 沖縄、愛知



【岩手】（株）紬
【宮城】（一社）チガノウラカゼコミュニティ

事例集

地域活性化を担う環境保全活動
の協働取組推進事業

【宮城】（一社）持続可能で安心安全な社会を
めざす新エネルギー活用推進協議会



地域活性化を担う環境保全活動
の協働取組推進事業

【青森】（一社）白山山地財団



【岩手】マイムマイム奥州
【秋田】（一社）あきた地球環境会議



環境省伴走支援事業、他

運営第 4 期

H28 (2016) 年度

H29 (2017) 年度

H30 (2018) 年度

協働の実践

協働型の交流会開催へ

みちのく薪びと祭り

● 第 3 回 in 福島みなみあいづ

● 第 4 回 in 宮城なるこ

● 第 5 回 in 秋田梅内

EPO 間連携

● 中間支援組織交流会 in 四国

ビジターセンター交流会

第 1 回 in 仙台
第 2 回 in 網張ビジターセンター



EPO東北
独自事業

地方 ESD 活動支援センター設置 に向けた体制整備等検討業務



東北地方 ESD 活動支援センター

- ・ 7/3 開設
- ・ 東北 ESD フォーラム 2018(仙台)



東北 ESD フォーラム in 岩手



東北 ESD センター

EPO 間連携による 3.11 語り部派遣事業

● ESD 学びあいフォーラム in 沖縄、愛知

● ESD 学びあいフォーラム in 中部

● ESD 学びあいフォーラム in 愛知



事例集
「3.11 あの時
教訓事例集」



東日本大震災対応

地域活性化を担う環境保全活動 の協働取組推進事業

【秋田】(一社)あきた地球環境会議
【山形】三瀬地区自治会

【山形】三瀬地区自治会



SDGs をツールとした地域の 環境課題と社会課題を同時解決 するための民間活動支援事業

【山形】三瀬地区自治会



環境教育における「ESD 推進」の ための先導的取組調査・実践拠点 支援事業

【青森】NPO 法人
青森県環境パートナーシップセンター
【岩手】マイムマイム奥州

環境教育・学習拠点における「ESD 推進」のための実践拠点支援事業

【青森】NPO 法人
青森県環境パートナーシップセンター
【秋田】(一社)あきた地球環境会議

【秋田】(一社)あきた地球環境会議

環境省伴走支援事業

運営第5期

H31/R1(2019) 年度

R2 (2020) 年度

R3(2021) 年度

リソースの活用

ネットワーク型の事業展開

みちのく薪びと祭り

第6回 in 青森おおわに

薪びと祭りキーパーソン会議 in 芸北

薪びと祭りキーパーソン会議 in 鳴子

EPO 間連携

第3回 in 名取トレイルセンター

中止

第4回 in 裏磐梯ビジターセンター

第5回オンライン開催

ビジターセンター交流会



EPO東北
独自事業

- ・東北 ESD/SDGs フォーラム in 仙台
- ・ESD 推進・地域研修会 in 青森



- ・東北 ESD/SDGs フォーラム 2020 YouTube 配信
- ・ESD 推進・地域研修会 in 青森



- ・東北 ESD/SDGs フォーラム in あおもり
- ・ESD for 2030 学び合いプロジェクト



東北ESDセンター

- ・福島ヒアリング



- ・福島ヒアリング

大震災から 10 年

新型コロナウイルス感染症の流行

- 第1波 3～5月【緊急事態宣言（1回目）】
- 第2波 7～8月
- 第3波 11～3月【緊急事態宣言（2回目）】

- ・執務室・会議室の感染予防対策実施
- ・会議室貸出ガイドラインの作成
- ・オンライン会議／催事の実施
- ・感染状況に応じて出張・外出、対面打合せの自粛

- 第4波 3～4月【緊急事態宣言（3回目）】
※変異ウイルス（アルファ株）
- 第5波 7～9月【緊急事態宣言（4回目）】
※変異ウイルス（デルタ株）
- 第6波 1～6月
※変異ウイルス（オミクロン株）

2020/1/14 WHO 新型コロナウイルスを確認
1/16 日本国内で初めて感染確認

東日本大震災対応

【山形】三瀬地区自治会



地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた地域循環共生圏の創造に取り組む採択団体の支援等の実施

地域循環共生圏づくりプラットフォーム支援等業務

- 【宮城】（一社）Reborn-Art Festival
（リボン・アート・フェスティバル）
- 【山形】三瀬地区自治会



地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

- ・ESG 金融フォーラム in 岩手

《事業化支援》

【宮城】（一社）Reborn-Art Festival

《環境整備》

- 【青森】NPO 法人循環型社会創造ネットワーク
- 【山形】三瀬地区自治会
- 【山形】米沢市



- ・ESG 金融シンポジウム in 秋田

環境省伴走支援事業

運営第6期

R4（2022）年度

R5（2023）年度

R6（2024）年度

EPO東北

運営体制の模索

みちのく薪びと祭り

Stag2 in 三瀬

EPO 間連携

生物多様性

- ・勉強会
- ・動画配信



東北ESDセンター

東北 ESD/SDGs フォーラム

YouTube 配信、アーカイブ配信

ESDfor2030 学び合いPJ

地域 ESD 拠点、学校との連携

ESD 地域研修会

- ・ ESD 実践校の支援 3 件
- ・ 環境施設との意見交換会

ESD 地域コーディネーター

試験的な導入・実施



環境省伴走支援事業

地域循環共生圏づくり

プラットフォーム支援等業務

《事業化支援》

【宮城】（一社）Reborn-Art Festival

《環境整備》

【岩手】（株）アースカラー

【山形】米沢市



地域循環共生圏

パートナーシップ基盤強化事業

- ・ ESG 金融セミナー in 青森、in 弘前
- ・ ESG 金融フォローアップ研修@秋田

新型コロナウイルス感染症の流行

第7波 7月～9月 ※変異株の流行
3/13～ マスクの着用は個人の判断が基本

5/8 感染法上の分類を5類感染症へ移行

【I .EPO 東北 運営期ごとの記録】 3. 情報発信の記録

運営第 2 期

H22 (2010) 年度

H23 (2011) 年度

H24 (2012) 年度

ウェブサイト等

環境の整備
情報発信ツールリニューアル

- Web-site
- メールマガジン
(月 1 回 + 増刊号)
- リーフレット
- 封筒

H23 (2011) 年
3 月 11 日 (金) 14 時 46 分
東日本大震災

【緊急対応】

Web-site

3/17 閉館のお知らせ掲載
3/24 ~ 震災対応に関する
お知らせ掲載

Web-site

「3.11 あの時」特設ページ開設

- スタッフ発信「現地レポート」
- 「3.11 あの時」レポート配信



サイトリニューアル

- 「3.11 あの時」特設ページ
→ 常設ページへ
- 前年度掲載ページの移行



機関誌

- 紙面リニューアル
- 年 2 回発行



- 特集面に環境復興再生プロジェクトを掲載
- エコグッズ紹介面に復興支援商品を掲載



継続



- Vol.16 (2012 年 11 月号) ~
特集面を EPO 東北の取り組み紹介
ページに変更

冊子等

ESD テキストブック
パートⅡ
広げよう東北の環境力
ESD つながる事例集



3.11 あの時
2011 年版



運営第 3 期

H25 (2013) 年度

H26 (2014) 年度

H27 (2015) 年度

ウェブサイト等

サイトリニューアル



7月16日

Web-site 障害発生

不正な改ざんを確認
→対応、対策協議
→サーバー初期化

メールマガジン

・月2回配信へ

6月14日
オフィス移転

・リーフレット改訂
・各種表示の改訂



サイトの新規構築

スタッフが構築していた体制を見直し、専門業者へ依頼



・3.11 あの時 2015 年版
レポート配信開始



機関誌

・特集面を取材記事の掲載に変更



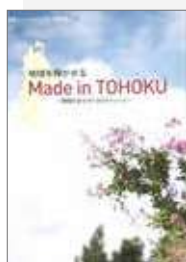
冊子等

3.11 あの時
2012 年版



◆ 3.11 あの時
2011 年版 増刷

3.11 あの時
2013 年版



環境ソーシャル
ビジネス事例集
地域を輝かせる
Made in TOHOKU
～環境を活かす
14 のチャレンジ～

3.11 あの時事例集
—中間支援組織
1 年間の後方支援
活動の記録—



EPO 東北 6 年間の
運営業務 総括
運営第 2 期～第 3 期



運営第 4 期

H28（2016）年度

H29（2017）年度

H30（2018）年度

ウェブサイト等

- 東北地方 ESD 活動支援センター
- ・ウェブサイト開設（9/1）
 - ・リーフレット作成
 - ・封筒改定



機関誌

- ・表紙をマイナーチェンジ
- ・東北 6 県トピックスデザイン変更



- ・特集面を寄稿記事に変更



冊子等

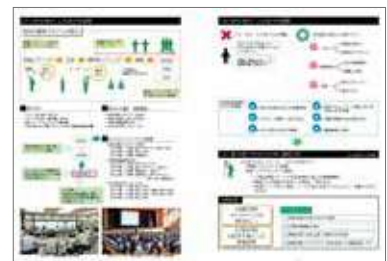
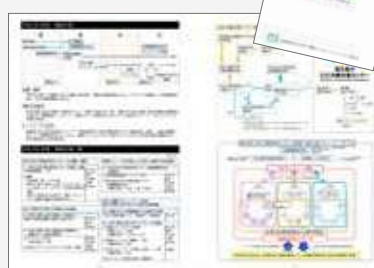
3.11 あの時
教訓事例集



EPO 東北
業務報告書の
ビジュアル化



東北地方 ESD 活動支援
センター業務報告書の
ビジュアル化



運営第 5 期

H31/R1(2019) 年度

R2 (2020) 年度

R3(2021) 年度

ウェブサイト等

メールマガジン

- ・リニューアル（9 月配信号から）
EPO 東北、東北地方 ESD 活動支援センターからの情報を掲載

リーフレット改訂

- ・EPO 東北、東北地方 ESD 活動支援センターのリーフレットを一本化



EPO 東北ウェブサイト

- ・レンタルサーバーの PHP バージョンアップに伴うシステム全般の改修
- ・サイトリニューアル（レスポンス対応）

東北地方 ESD 活動支援センターウェブサイト

- ・全国センターへ更新依頼を行う体制から、東北地方 ESD 活動支援センター内で更新作業ができる体制への移行

メールマガジン

- ・レンタルサーバーの PHP バージョンアップに伴いメールマガジン配信に不具合が発生（11 月）
- ・配信システムの見直し

オンライン会議 / 催事対応

- ・Web 会議システム、機材の導入



メールマガジン

- ・配信システムの外部サービス利用開始

オンライン会議 / 催事対応

- ・機材の追加整備
- ・催事での配信業務の外部委託

機関誌

EPO 東北、東北地方 ESD 活動支援センター PR ツールとして機関誌の位置づけを見直し

- ・紙面リニューアル
- ・8 ページ→ 16 ページへ
- ・年 2 回発行→年 1 回発行へ



冊子等

SDGs 紹介チラシの作成



SDGs 紹介子ども向けチラシの作成



業務報告書の一本化

運営第 6 期

R4（2022）年度

R5（2023）年度

R6（2024）年度

ウェブ
サイト等

オンライン会議対応

▲不具合の発生（4月～）

- ・音声の乱れ
- ・ネット接続が切れる

【対応】（6月～11月）

- ・通信環境の調査
- ・執務室内接続の変更
- ・新たに Wi-Fi アクセスポイントの設置（11/16）

オンライン催事対応

- ・配信業務の外部委託
- ・スタジオ収録型アーカイブ配信の試行



冊子
等

業務報告書類の見直し

- ・事業報告、催事報告書類の廃止
- ・「事業実施報告書」への一本化



プロジェクトごとのまとめ資料作成

- ・みちのく薪びと祭り
- ・ESD for 2030 学び合いプロジェクト



運営第 6 期

令和 4 年度（2022 年度）～令和 6 年度（2024 年度）

中期事業計画と令和 4 年度事業計画

【Ⅱ.事業計画】 1.運営第6期 中期事業計画

これまで EPO 東北では県境を越えて東北ブロックのネットワークを形成することに注力してきました。社会の動きは大きな変革期を迎えており、地域の課題解決にあたり、課題の本質を見極めること、環境面だけではなく社会的・経済的な側面からも向上を図る視点を持つことが肝要です。また、その実行にあたっては多様な主体の連携・協働が欠かせないことから、分野を横断する重層的なネットワークの構築により、多角的な視野を持って課題解決の手法を議論し、これまでにない新しい取組みを創出することが期待されます。

そこで、仙台に拠点がある EPO 東北並びに東北地方 ESD 活動支援センターの連携を円滑にするため、新たなネットワーク基盤及び運営基盤づくりに取り組みます。パートナーシップ団体や地域 ESD 活動推進拠点、地域で活動に取り組む様々な主体との連携・協働のあり方を見直し、オンラインの手法を活用しながら時代に即したスタイルへとネットワークを結び直します。ついては、新たに地域の活動を支援するコーディネーターを発掘し、「地域リソースの活用」からステップアップし、「地域リソースが主体的に動くしくみ」づくりを目指します。環境活動に取り組む自治体、NPO、企業、大学等、多様な主体に働きかけることで、活動の底上げを図ります。

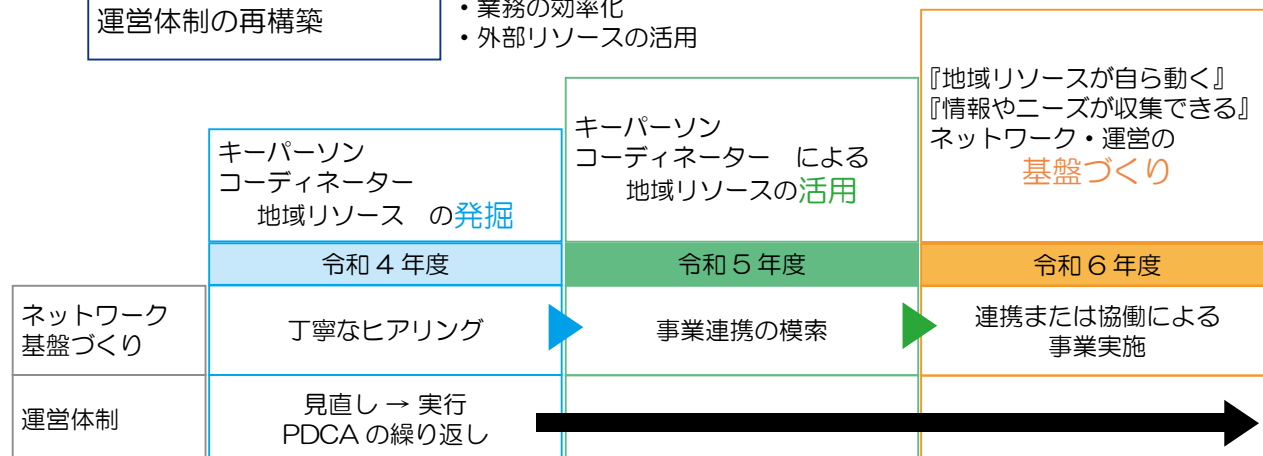


目標 新たなネットワーク基盤・運営基盤の確立

- ・地域ネットワークと接続した重層的・複線的なネットワークを構築する
- ・外部リソースを活用した運営体制

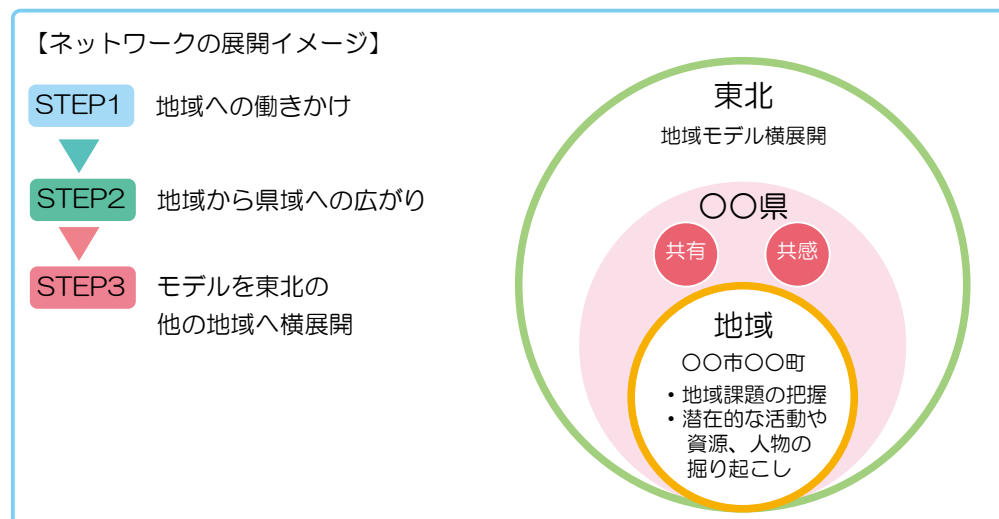
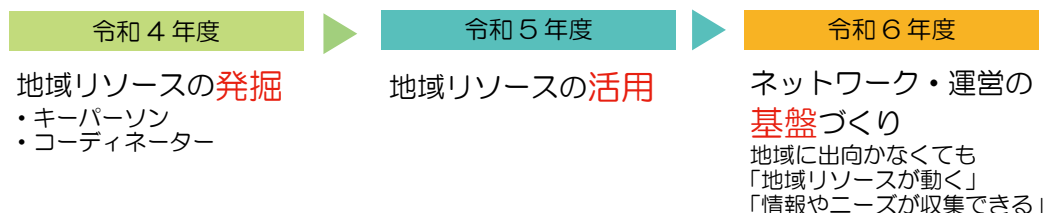
課題

新たなテーマでの連携・協働体制の構築	・「脱炭素」「OECD」等、新たなテーマへの対応 ・ESD の質的向上・量的拡大
既存の地域ネットワークとの接続	・既存ネットワークの結び直し ・時代に即した連携・協働のあり方の模索
運営体制の再構築	・業務の効率化 ・外部リソースの活用



【Ⅱ.事業計画】2. 令和4年度事業計画 (1) 業務の目的と基本方針

運営第6期（令和4年度～令和6年度）
中期目標：新たなネットワーク基盤・運営基盤の確立



業務の目的

EPO 東北が環境教育等促進法に規定する国の役割を果たすため、また、東北地方 ESD 活動支援センターが国内実施計画等を踏まえた役割を果たすため、以下を目的に業務を推進します。

- ①様々な主体との連携・協働の取り組みを広げ、効果的かつ効率的に環境保全活動や環境施策への協力及び ESD 活動を活性化させること
- ②東北ブロックにおける多様な主体のネットワークの構築により ESD の質的向上・量的拡大を図ること
- ③地域の ESD と地域内外の ESD 活動をつなぎ、人づくりの側面から ESD の目標である SDGs 実現への貢献に寄与すること
- ④地域循環共生圏および地域脱炭素ロードマップの考え方に基づき、持続可能な地域づくりを通じて環境で地方を元気にしていくとともに、持続可能な社会を構築するための創造に取り組むこと

令和4年度 基本方針

新しい「伝え方」の試行

- ①オンラインツールの活用
- ②「伝える」工夫



パートナーの発掘

- ①既存のネットワークの結び直し
- ②新たなキーパーソンの掘り起こし



新しい運営スタイルの試行

- ①ネットワークを活かした運営体制の構築
- ②委員会のあり方



事務局の業務効率化

- ①感染症予防に対応した働き方
- ②業務の見直し、削減、効率化

【Ⅱ. 事業計画】 2. 令和 4 年度事業計画 (2) 事業構成

	EPO 東北	東北地方 ESD 活動支援センター
運営	1. 事業運営会議 - 東北地方環境事務所、MELON、EPO 東北による会議。 - 密接な情報共有および意見交換を図るため定期的な打合せを行い、協働による円滑な運営に取り組む。 2. 事業検討委員会 - 有識者、企業、NPO、行政等 8 名で構成する。 - 委員から事業の助言やアドバイスおよび情報提供をいただく場として年 2 回開催する。 3. 施設の維持管理 - 会議スペースの供用、図書の貸し出し、資料提供を行う。 - ガイドラインを設け感染症予防対策に努める。	2. 企画運営委員会 - 有識者、企業、NPO、行政等 8 名で構成する。 - 委員から事業の助言やアドバイスおよび情報提供をいただく場として年 2 回開催する。
基本業務	4. 情報の受発信 - 関係者へのヒアリング及び情報交換の機会を設け、地域の課題やニーズの把握に取り組む。 - ウェブサイト、メールマガジン（月 2 回発行）等で収集した情報を発信する。 5. 相談対応 - 資料の提供、活動の支援や事業連携など相談内容に合わせて対応する。 - 過去に支援した案件のフォローアップを行う。 6. 全国事業に係わる業務 - EPO 連絡会議（年 3 回）、その他会議への参加 - EPO ネットワークへの協力	5. 相談対応 - ESD 活動実践者や実践団体から相談や支援要請があった場合、資料の提供、活動の支援や事業連携など適切に対応する。 6. 全国事業に係わる業務 - 全国・地方 ESD センター連絡会（年 2 回）、その他会議への参加 - 全国フォーラムへの参加、協力 7. 地域 ESD 活動推進拠点等の活動支援 - 登録手続きの支援、協力 - 地域 ESD 活動推進拠点間の情報共有や連携等、活動を支援する。
全国共通	7. 地域循環共生圏プラットフォーム事業 「環境整備」活動団体への伴走支援 - 各種会議への参加、情報および資料提供 - 東北ブロック中間共有会の開催（1 回） 8. 森里川海生態系ネットワーク形成会合 - OECM をテーマとした情報交換会の開催（2 回） 9. 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化 - 地域の金融機関、経済団体等の参加する情報交換会の開催（4 回） - パートナーシップ情報の授受	8. ESD for 2030 学び合いプロジェクト - 地域内外の ESD 実践者と連携し、ESD 活動を学び合う機会を提供する。 - 勉強会（2 回）、意見交換会（1 回）、実践活動（1 回）を行い、東北ブロックにおける ESD ネットワーク構築に貢献する。 9. 地域フォーラム - 東北各地の多様なステークホルダーが参加し、地域における活動および課題やニーズを共有し相互に学び合うフォーラムを開催する（1 回）。
東北独自	10. パートナーシップ団体情報交換会 - 地域の状況を情報共有し、国内の最新動向について学ぶ情報交換会を開催する（1 回）。 11. みちのく薪びと祭り - 持続可能な暮らしや地域のあり方をテーマにした相互交流の機会として「みちのく薪びと祭り」を開催する（1 回）。 「次世代の担い手」に焦点を当て新たなステークホルダーの巻き込みを図る。	10. ESD 地域研修会 地域 ESD 活動推進拠点の連携によって ESD 推進の底上げと活性化を図ることを目的に、地域の ESD 実践者を対象に研修会を実施する（1 回）。

【Ⅱ. 事業計画】 2. 令和4年度事業計画 (3) 内容

運営

内容

1. 事業運営会議

- ・東北地方環境事務所、MELON、EPO 東北による会議。
- ・密接な情報共有および意見交換を図るため定期的な打合せ（年5回程度）を行い、協働による円滑な運営に取り組む。

2. 事業検討委員会、企画運営委員会

- ・学識経験者、企業、NPO、行政等、8名で構成する。
- ・委員から事業の助言やアドバイスおよび情報提供をいただく場として年2回開催する。
- ・2つの委員会を同日に開催し、互いに委員がオブザーバー参加することでEPO 東北、東北地方ESD活動支援センター、2つの事業の理解を促す。

3. 施設の維持管理

- ・民間団体等が環境保全に関する情報交換や交流を図る機会を増やすため、会議スペースを供用する。
- ・図書の貸し出し及び各種リーフレット等の資料提供を行う。
- ・ガイドラインを設け感染症予防対策に努める。

基本業務

内容

4. 情報の受発信（EPO 東北、東北地方ESD活動支援センター）

- ・関係者へのヒアリング及び情報交換の機会を設け、地域の課題やニーズの把握に取り組む。
- ・関係機関の動向や、環境およびESD/SDGsに関する情報を収集し、ウェブサイト、メールマガジン（月2回発行）等で収集した情報を発信する。

5. 相談対応（EPO 東北、東北地方ESD活動支援センター）

- ・資料の提供、活動の支援や事業連携など相談内容に合わせて適切に対応する。
- ・過去に支援した案件について活動状況をヒアリングし、他地域の活動情報の提供、助成金や補助事業の紹介などのフォローアップを行う。

6. 全国事業に係わる業務（EPO 東北、東北地方ESD活動支援センター）

【EPO】

- ・地方EPO間の連携強化と情報共有を目的とした全国EPO連絡会議（年3回）及び、業務に係る連絡調整の目的で開催される会合に出席する。
- ・GEOCが開催する持続可能な地域づくりのための情報交換会への参加や、EPOネットワークへの協力を行う。

【ESD センター】

- ・全国・地方ESDセンター連絡会（年2回）、その他全国センターが実施する会議に出席する。
- ・全国フォーラムに参加するとともに、必要に応じて登壇者との調整等に協力する。

7. 地域ESD活動推進拠点等の活動支援

- ・地域ESD活動推進拠点の間で情報共有や事業連携を図ることにより、地域におけるESD活動を支援する。
- ・地域ESD活動推進拠点への登録手続きにおいては登録審査を行う全国センターに対する情報提供を行う。

全国共通

内容

7. 地域循環共生圏プラットフォーム事業

- ・「環境整備」活動団体への伴走支援

		活動団体（主な活動地域）	活動テーマ（仮）
環境整備	【新規】	株式会社アースカラー（岩手県普代村）	DEEP 三陸循環共生圏の構築
	【継続】	米沢市（山形県米沢市）	地球に感謝！なせばなる上杉鷹山流のローカル SDGs
事業化支援		一般社団法人 Reborn-Art Festival（宮城県石巻市）	ワクワクする循環を増やす。挑戦できるまち、石巻。

- ・東北ブロックにおける活動団体同士の間接共有会の開催（1回）
- ・GEOC 等が主催する関連会合への参加、過年度活動団体のフォローアップ等

8. 森里川海生態系ネットワーク形成会合

- ・生物多様性の保全が図られている保護地域と OECM（保護地域以外で生物多様性の保全に資する区域）による生態系ネットワーク化を推進することにスポットを当て、地域の関係者を巻き込んだ情報交換会を開催（2回）

9. 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化

- ・地域の金融機関、経済団体等の参加する情報交換会の開催（4回）
- ・GEOC が開催するヒアリングに対応し、地域循環共生圏の創造に資する企業及び金融機関等とのパートナーシップの形成状況について情報提供を行う。

東北独自

内容

10. パートナーシップ団体情報交換会

- ・東北各地で各事業を展開するにあたり、地域の窓口となる団体を「パートナーシップ団体」と定義し、各地の動向について情報共有するとともに国内の最新動向について学ぶ情報交換会を実施する（1回）。

※パートナーシップ団体

円滑に事業を推進するために東北各県の窓口となる団体との連携・協力関係を築いており、総称して「パートナーシップ団体」と呼んでいる。

11. みちのく薪びと祭り

- ・持続可能な暮らしや地域のあり方をテーマにした相互交流の機会として「みちのく薪びと祭り」を開催する（1回）。森林の手入れをしながら薪をエネルギーとして活用し、資源や人、経済の地域循環に取り組む小さなモデルに焦点を当て、関係者が相互に学び合い活動の活性化を図る。
- ・「次世代の担い手」に焦点を当て新たなステークホルダーの巻き込みを図る。
- ・コロナ時代に対応した新しいスタイルの「みちのく薪びと祭り」を企画する。

全国共通

内容

8.ESD for 2030 学び合いプロジェクト

- 地域内外の ESD 実践者と連携し、ESD 活動を学び合う機会を提供する。
- 勉強会（2 回）、意見交換会（1 回）、実践活動（1 回）を行う。
- ESD の視点から取り組みの意義や価値を評価する場を設けることで、活動の実践者や取り組みを支える関係者の意欲向上と活動の活性化や発展を促進する。
- 企画実施にあたっては「地域コーディネーター」と連携し、地域リソースの活用を試行する。

9. 地域フォーラム

- 東北各地の多様なステークホルダーが参加し、地域における活動および課題やニーズを共有し相互に学び合う「東北 ESD / SDGs フォーラム」を開催する（1 回）。
- オンライン配信ならではのプログラムや演出の工夫についてメディア関係者の助言を得ながら企画する。

東北独自

内容

10.ESD 地域研修会

- 地域 ESD 活動推進拠点の連携によって ESD 推進の底上げと活性化を図ることを目的に、地域の ESD 実践者を対象に研修会を実施する（1 回）。
- 企画実施にあたっては「地域コーディネーター」と連携し、地域リソースの活用を試行する。
- 地域 ESD 活動推進拠点と連携し、「気候変動教育」をテーマとする実践活動およびフォローアップ等支援のモデルを創出する。

運営第6期

令和4年度（2022年度）～令和6年度（2024年度）

令和4年度 事業報告

【Ⅲ. 事業報告】 1. 令和4年度 事業総括

新型コロナウイルスが確認されてから3年目となり、オンライン会議の活用が定着した。移動時間が削減でき安定的にインターネットに接続できる環境と場所があれば参加できるメリットがある一方で、通信状況や機器の調子の影響や踏み込んだ議論には至らない等のデメリットがある。共に議論し協働の場づくりを行うまたは関係性を構築してネットワークを形成したい場合はリアル開催における情報量をオンラインに置き換えることが難しく、事業の目的に合わせて人と人のつなぎ方を考慮する必要がある。

●運営

① ESD 地域コーディネーターの試行

東北 ESD 活動支援センター事業において、青森県、福島県でそれぞれ地域の事情やニーズに合わせた ESD 活動の支援を実施することができた。これをきっかけに地域 ESD 拠点登録につながり、青森と福島の学校による ESD 実践校交流会を開催するに至った。継続して運用を進めるにあたっては細かな点でルールの再整理が課題となっている。

●情報の発信

① 独自スタイルのオンライン催事の開催

リアル開催における情報量をできるだけオンラインに置き換える試みとして、対話型のフォーラムやセミナーの配信を行った。東北 ESD/SDGs フォーラムでは多様な主体が数十秒の動画で登場し、「活動に取り組む人が東北各地にたくさんいると伝わった」と好評を得ている。メディア関係者の協力のもとで企画を行っており、今後も専門家との連携のもとで時代に即した発信のあり方の探求が課題となる。

② 情報誌の廃止

対面でのヒアリングや会議、催事の開催数が減少したことで情報誌「EPO 東北通信」を配布する機会も減っている。スタッフの業務負担を減らす観点からも紙媒体での情報発信について見直し、情報誌の発行を取りやめた。必要に応じて事業毎の取りまとめ資料を作成し、PDF データをウェブサイトに掲載した。

●EPO 東北

① 「みちのく薪びと祭り」の開催

薪をテーマとする地域開催型の交流事業で、H26（2014）年度から6年間にわたり東北各地で開催してきた。本事業を通して得た協働の知見やネットワークは EPO 東北の大きな財産となっている。新型コロナウイルスの発生以降は交流会型事業の自粛が求められ、企画運営に携わる関係者と今後の方向性について議論を重ねてきたが、新たに若手のステークホルダーの参画を得ながら新スタイルでの開催に至った。リアル開催による情報量や交流の質を改めて実感するとともに、今後の「協働」のあり方は大きな課題となる。これまでのつながりを大事に捉えながら多様な主体の参画を促すこと、参加層の変化に合わせた運営手法の模索が求められる。

●東北地方 ESD 活動支援センター

① 継続的な連携

やまがた SDGs・ESD 研究会や山形県教育センター、宮城県観光連盟等、相談対応等をきっかけに年度を跨いで連携を行う案件が増えている。地域の ESD 活動の支援につながる成果であると考えられるが、業務量の増加に伴い事業連携の相談に対してどこまで対応するか判断が必要となる。

② モデルプログラムの創出と気候変動教育の整理

座学に留まらず学びを深め、価値観や行動変容を促すモデルプログラムが実施できた。地域 ESD 拠点との連携により学校に対する事前・事後のフォローアップが行われたことも大きな成功要因であるとする。また、関係者が知見を共有して活動を評価する機会を設けたことで、気候変動教育の課題と取り組み方、東北地方 ESD 活動支援センターの役割が整理された。

●R5 年度に向けて

設置当初から比べると EPO 東北や東北地方 ESD 活動支援センターを取り巻く関係者の属性は多様化し、重層的なネットワークが形成されつつある。これに伴い求められる「協働のあり方」も変容している。これまでの取り組み方に捉われず多様な主体との連携・協働のもと、新しい視点で事業展開を考えていくことが求められる。

年を追うごとにネットワークは拡大および深化しており、業務の規模が拡大傾向にある。「みちのく薪びと祭り」と同様に企画から運営に至るまで長期に渡り複数の関係者との調整が必要となる事業が増加した。これらに対応していくためには外部リソースの活用が重要になると考える。同時に事務局内では円滑な事業推進に向けた体制の改善、コーディネーターの育成が課題となるが、地域のニーズや課題を把握して取り組みを支援するコーディネーターの育成には時間を要することから中長期の課題と捉えて対応する必要がある。

リアル開催の会議や催事およびヒアリングの自粛に伴い、新規の相談件数や事業の活動支援、共催・後援の件数は大きく減少している。情報発信のあり方が多様化する中で、地域の主体への働きかけのあり方、情報受発信のあり方は運営第6期の大きな課題となる。

【Ⅲ. 事業報告】 2. 事業実施一覧

(1) 東北環境パートナーシップオフィス事業

運営

1. 事業運営会議

第1回	4/25
第2回	6/13
第3回	8/22
第4回	10/3
第5回	1/31

2. 事業検討委員会

第1回	6/6
第2回	2/9

3. 施設の維持管理

開館状況	開館日数	237日
	来場者数	440人
会議スペースの提供	利用件数	102回
	利用者数	432人
図書資料等の提供	提供実績	89回
	収集資料	145件

基本業務

4. 情報の受発信

Web サイト	随時更新
メールマガジン	月2回配信

5. 相談対応

相談件数	54件
対話の機会数	105件
共催事業	0件
後援	1件
活動支援	4件
その他(協力)	1件

※対話の機会数：情報収集や合意形成等の目的で参加したセミナー・委員会・協働団体との会議等

6. 全国事業に係わる業務

全国 EPO 連絡会議	第1回	6/14	
	第2回	10/11-12	ハイブリッド
	第3回	1/24	
パートナーシップ捉え直し タスクフォース	第1回	10/5	ハイブリッド
	第2回	12/16	
地球温暖化防止活動推進 センターブロック会議	第1回	7/12	対面 / 仙台市
	第2回	1/20	
情報共有会	第1回	12/23	オンライン
	第2回	3/16	
	第3回	3/24	

全国共通

7. 地域循環共生圏プラットフォーム事業

採択：34 団体

分類	全体	東北
環境整備	新規 11 団体	1 団体
	継続 16 団体	1 団体
事業化支援	7 団体	1 団体

① -1・2. 環境整備支援

分類	団体名
新規	株式会社アースカラー（岩手県）
継続	米沢市（山形県）

① -3. 東北ブロック中間共有会

中間共有会	11/21	オンライン
-------	-------	-------



第1回全国 EPO 連絡会（6/14）

① -4. GEOC が主催する会議等への参加

キックオフミーティング	6/7-8	オンライン
共有会	5/17	オンライン
作業部会	第1回 8/18	ハイブリッド
	第2回 1/13	
アドバイザー 委員会	第1回 8/23	ハイブリッド
	第2回 1/13	
事業形成会議	12/13	オンライン
成果共有会	3/8-9	対面 / 東京
傍聴	有識者会議 第1回 12/1	オンライン
	第2回 3/27	
	ワーキング グループ 第1回 9/22	
	第2回 2/10	

① -5. 事業化支援団体の活動の情報共有

(一社) Reborn-Art Festival (宮城県)		
ヒアリング	4/21	
定例	第1回 7/28	
ミーティング	第2回 11/11	オンライン
	第3回 12/27	
	第4回 3/24	
意見交換会	第1回 8/10	
	第2回 2/16	
意見交換合宿	11/24-25	対面 / 佐賀

① -6. 支援終了団体のフォローアップ調査

三瀬地区自治会（山形県）	活動年度： R2～3年度
--------------	-----------------

全国共通

8. 森里川海生態系ネットワーク形成会合

ヒアリング、意見交換	適宜	
勉強会兼意見交換会	9/21	対面 / 多賀城市
	9/28	対面 / 仙台市
生物多様性に関する 情報発信	3/1 ~ 3/15	アーカイブ配信



あおり中小企業のための ESG 金融・脱炭素経営に関するセミナー（10/28）

9. 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化

七十七銀行 SDGs セミナー	5/26	ハイブリッド
【協力】七十七銀行 第3回テーマ別勉強会	8/23	
あおり中小企業のための ESG 金融・脱炭 素経営に関するセミ ナー	10/28	対面 / 青森市
令和4年地域循環共 生圏 ESG 金融フォロ アップ研修会	1/17	対面 / 弘前市
	2/6	オンライン

東北独自

10. パートナーシップ団体情報交換会

情報交換会	7/12	対面 / 仙台市
-------	------	----------



パートナーシップ団体情報交換会（7/12）

11. みちのく薪びと祭り

キーパーソン会議	7/13	ハイブリッド
みちのく薪びと祭り	10/21-22	対面 / 鶴岡市
次年度開催地（岩手） ヒアリング	1/5-6	対面 / 遠野市 釜石市



みちのく薪びと祭り（10/21-22）

(2) 東北地方 ESD 活動支援センター事業

運営

1. 事業運営会議
※ EPO 東北共通
(P26 参照)

2. 企画運営委員会

企画運営	第 1 回	6/6
委員会	第 2 回	2/9
情報共有会		10/7

3. 施設の維持管理
※ EPO 東北共通
(P26 参照)

基本業務

4. 情報の受発信

Web サイト	随時更新
メールマガジン	月 2 回配信

5. 相談対応

相談件数	19 件
対話の機会数	44 件
共催事業	5 件
後援	3 件
活動支援	5 件
その他(協力)	1 件

6. 全国事業に係わる業務

全国センター	第 1 回	6/23	オンライン
企画運営委員会	第 2 回	3/2	
全国・地方	第 1 回	6/15	ハイブリッド
ESD センター連絡会	第 2 回	1/23	
ESD 推進ネットワーク全国フォーラム		12/10	ハイブリッド
ESD 全国ネットワーク団体 意見交換会		9/12	対面 / 東京
ESD 推進ネットワーク 可視化タスクフォース(拡大版)		10/17	ハイブリッド
環境省環境教育推進室 意見交換		10/25	ハイブリッド

7. 地域 ESD 活動推進拠点等の活動支援

登録数	全国	173 件	R5/1/4 現在
	東北	20 件	前年度比 +4 件

全国共通

8. ESD for 2030 学び合いプロジェクト

東北モデルプログラム
「ワールド・気候スタディズ ESD/SDGs」

勉強会①	7/4	対面 / 大仙市
勉強会②	8/1	対面 / 秋田市
実践活動	10/26	オンライン
意見交換会	12/5	オンライン

9. 地域フォーラム

東北 ESD/SDGs フォーラム 2022
～スポーツ・音楽・伝統工芸から SDGs を紐
とく～

東北 ESD/SDGs フォーラム 2022	1/21	オンライン配信
	2/1 ~	アーカイブ配信
	2/28	

東北独自

10. ESD 地域研修会

① 秋田県大仙市立大曲南中学校ワールドピースゲーム	11/14-18	対面 / 大仙市
② ESD 実践校交流会	1/11	オンライン
③ 宮城県内環境施設との意見交換会	2/14	対面 / 仙台市
④ 山形県山形市立千歳小学校キリバス講演会	2/21	対面 / 山形市



八戸市立金浜小学校 ESD 授業 (9/1)



ESG 金融・脱炭素経営に関するセミナー弘前会場 (1/17)

(3) その他 企業等との協働事業

全国共通

1. (独) 環境再生保全機構 地球環境基金との事業連携

地球環境基金主催 EPO 連絡会	8/4	オンライン
2023 年度地球環境基金 助成金説明会（東北地区）	10/5	オンライン
地球環境基金との戦略会議	11/16	オンライン

2. GreenGift 地球元気プログラム

第 4 期（2019 年 10 月～2022 年 9 月）

実施県	実施団体	2022 春の全体会議	4/12	オンライン
青森県	小川原湖自然楽校	全国振り返り会議	12/16	オンライン
岩手県	（一社）いわて流域ネットワーク			
山形県	やまがたヤマネ研究会			

東北独自

3. 青森県 令和 4 年度環境配慮行動拡大モデル事業

環境配慮行動拡大モデル事業コーディネート業務

実施団体	事業名
津軽海峡マグロ女子会青森支部	Z 世代と一緒に！青森駅前 SDGs まちあるきツアー
アップルウェーブ株式会社	リンゴ娘と未来の弘前を考えよう！
ふるさとの家保存会	築 200 年の古民家でまだ使えるモノの循環を楽しもう！！



青森市環境フェア（12/11）



30by30 に関する事務局内勉強会（7/29）



EPO 東北・東北地方環境事務所 事業ミーティング（4/7）



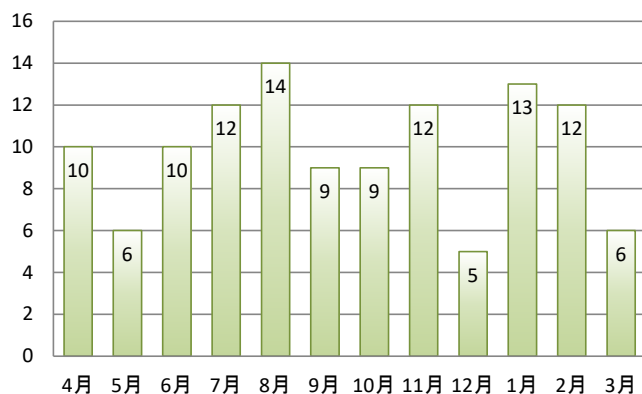
地域循環共生圏プラットフォーム事業（米沢市）打合せ（1/18）

【Ⅲ. 事業報告】 3. 出張・外出のべ日数

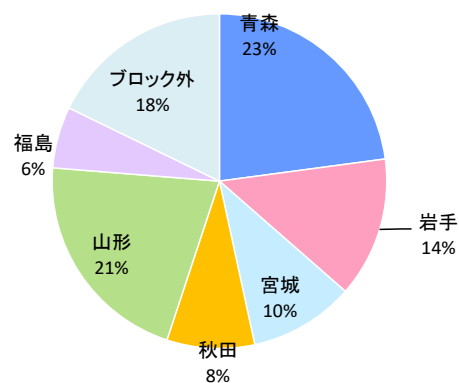
EPO 東北では対面でのコミュニケーションを軸にした事業展開を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症への対応の観点から引き続き東北各県の感染状況を鑑みて、対面またはオンラインでの事業対応に取り組んだ。他団体が主催する会議や催事は対面を軸にハイブリッド形式で行われる傾向にあり、これに応じて出張・外出が微増している。オンライン打合せでは合意形成が不十分なこともあり、東北地方環境事務所とも適宜相談をしながら状況に合わせて対面またはオンライン対応の判断を行った。出張者は消毒液等を携帯するなど外出の際は感染症対策に十分に注意して業務に取り組んだ。

①出張・外出のべ日数 のべ118日

【月別のべ出張・外出】

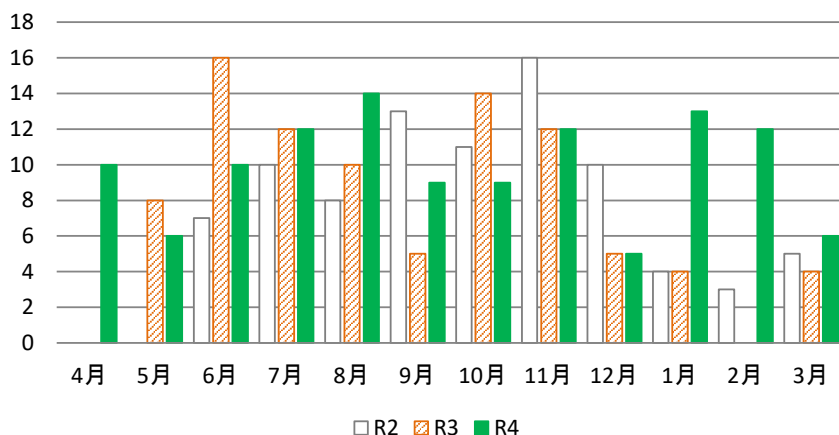


【地域別訪問状況】



【3年間における比較】

出張・外出のべ日数／月別



ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム第2回 SDGs セミナー (10/1)



第1回全国・地方ESD活動支援センター連絡会 (6/15)

【Ⅲ. 事業報告】 4. 事業実施報告 (1)EPO 東北業務

1) 運営

①東北地方環境事務所との協働（仕様書番号 6）

東北地方環境事務所と業務の進捗について日常的に報告・連絡・相談と定期的な打合せを行い、協働による EPO 東北事業の円滑な運営に努めた。

催事名	事業運営会議
開催日	第 1 回 R4/4/25（月）
	第 2 回 R4/6/13（月）
	第 3 回 R4/8/22（月）
	第 4 回 R4/10/3（月）
	第 5 回 R5/1/31（火）
場所	EPO 東北（宮城県仙台市）
参加者	東北地方環境事務所、（公財）みやぎ・環境とくらし・ネットワーク、EPO 東北
内容	① EPO 東北事業の進捗確認 ②意見交換



事業運営会議（4/25）

②事業検討委員会の開催運営等（仕様書番号 4-（1）-ア）

●名簿（敬称略、順不動）

	氏名	所属・役職
委員長	新妻弘明	東北大学名誉 教授、 日本 EIMY 研究所所長
副委員長	市瀬智紀	宮城教育大学教育学部国際教育領域 教授、 ESD/ ユネスコスクール・東北コン ソーシアム 運営委員長
委員	小幡秀樹	(株) SKホールディングス 人事広報部 部長
	藤公晴	青森大学社会学部 教授、 青森大学 SDGs 研究センター長
	畠山順子	NPO 法人 あきたパートナーシップ 理事長
	渡部昌俊	ふくしま薪ネット
	中村公一	岩手県環境生活部環境生活企画室 企画課長
	大内伸	宮城県環境生活部環境政策課 課長



事業検討・企画運営委員会オンライン開催（6/6）

●開催

第 1 回 EPO 東北事業検討委員会並びに第 1 回東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会

開催日	R4/6/6（月）
会場	オンライン会議
参加者	26 名（委員 6 名、代理出席 1 名）
内容	(1)EPO 東北事業検討委員会 ①議長選出 ② R4 年度事業計画について ③意見交換 (2) 東北地方 ESD 活動支援センター企画 運営委員会 ①議長選出 ② R4 年度事業計画について ③意見交換 (3) 全体意見交換

第 2 回 EPO 東北事業検討委員会
並びに第 2 回東北地方 ESD 活動支援センター企画運
営委員会

開催日	R5/2/9（木）
会場	ハイブリッド 仙都会館（宮城県仙台市）
参加者	28 名（委員 7 名、代理出席 1 名）
内容	(1)EPO 東北事業検討委員会 ①令和 4 年度事業報告 ②意見交換 (2) 東北地方 ESD 活動支援センター企画 運営委員会 ①令和 4 年度事業報告 ②意見交換

③施設の維持・管理（仕様書番号 4-(1)-イ-(オ)）

開館状況	開館日数	237 日
	来場者数	440 人
会議スペースの提供	利用件数	102 回
	利用者数	432 人
図書資料等の提供	提供実績	89 回
	収集資料	145 件

【新型コロナウイルス感染症に関する対応と予防対策】

- ①執務室・会議室の感染症対策
 - ・消毒液の設置
 - ・定期的な消毒（1 日 4 回）
 - ・定期的な換気（1 日 4 回、10 分以上）
 - ・飛沫防止パーティションの設置
- ②会議室貸出ガイドラインをウェブサイトに掲載
- ③勤務体制
 - ・感染状況に応じて在宅勤務を導入し感染リスクを回避
 - ・スタッフの体調管理
 - ・マスクの着用
 - ・出張・外出時は消毒液等を携行、感染対策に十分注意する。

【Wi-Fi アクセスポイントの設置】

オンライン会議の際に音声の乱れやネット接続が途切れる等の不具合が頻発したことから執務室内の通信環境の調査を行い、新たに Wi-Fi アクセスポイントを設置した（11/16）。

2) 基本業務

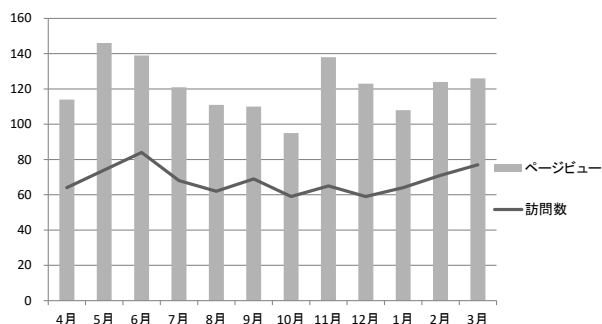
①ウェブサイト等を活用した情報発信、PR（仕様書番号 4-(1)-イ-(ア)）

●情報収集

脱炭素や生物多様性などをテーマに各所で新たな動きが出てきていることから、最新情報やニーズ把握のために積極的な情報収集に取り組むとともに、適宜関係者へのヒアリングを行なった。得られた情報をもとに各事業の企画を行った。

ウェブサイト

ウェブサイトアクセス数 1 日平均 121.3 件



●情報発信

ウェブサイトおよびメールマガジンを活用し、環境活動や ESD、SDGs に関する情報の他、関係機関の動向、公募や助成金情報等の発信に努めた。また主催事業においては事前収録型の動画配信など、新しいスタイルの発信の試行に取り組んだ。

メールマガジン

タイトル	東北えぼめーる通信
内容	(1)EPO 東北からのお知らせ (2) 東北地方 ESD 活動支援センターからのお知らせ (3) 環境省からのお知らせ (4) 助成金・募集情報
登録者数	1,202 名（前年比 +4 名）（前年 1,198 名）
配信	月 2 回、臨時号（3/1）

②相談対応・対話の場作り及び過去案件のフォローアップ（仕様書番号 4-(1)-イ-(イ)）

共催 なし

後援

No.	開催日	開催地	主催	催事名等	開催形式
1	10/18	秋田県 秋田市	(一社) あきた地球環境会議	令和4年度地域における地球温暖化防止活動促進事業 あきた脱炭素支援セミナー	ハイブリッド

活動支援・協力

No.	開催日	開催地	主催	催事名等	開催形式
1	4/29	山形県 酒田市	庄内協議会	庄内協議会ローカル SDGs 学習会	対面
2	7/8	山形県 酒田市	(株) 平田牧場	平田牧場 SDGs 社内研修会	対面
3	8/26	山形県 遊佐町	遊佐町	令和4年度協働のまちづくり研修会 SDGs 学習会	対面
4	3/11	宮城県 仙台市	仙台シティエフエム RADIO3 (ラジオ3)	3.11 特番「震災と SDGs」	(収録) 対面 生放送

催事・会議等参加

No.	開催日	開催地	主催	催事名等	開催形式
1	3/15	宮城県 大崎市	大崎市産業経済部 世界農業遺産推進課	SDGs 未来都市・大崎市 おおさきネイチャーポジティブシンポジウム	対面

その他

- ・東北労働金庫が発行する冊子で SDGs をテーマに取り扱うこと、地域に貢献する環境団体の活動紹介を掲載することの相談を受け、東北各県から 1 団体ずつ推薦を行った。
「ゆとり〜ぶ（年 2 回発行）」
【企画名】知る学ぶから行動する SDGs へ
【掲載号】2022 夏号 Vol.40、2022 冬号 Vol.41



過去案件のフォローアップ

- ・地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業において、昨年度まで伴走支援の対象であった案件のフォローアップに留意した。
- ・その他、過去に対応した案件について必要に応じて情報交換、情報提供などを行った。

委員協力

No.	主催	会議名
1	宮城県環境生活部環境政策課	「ダメだっちゃ温暖化」宮城県民会議企画委員会
2	宮城県自然保護課	宮城県自然環境保全審議会
3	リブルンふくしま	リブルンふくしま情報発信拠点運営委員会
4	(一社) あきた地球環境会議	あきた市脱炭素プラットフォーム設立準備委員会

その他相談対応

- ・企画への助言
- ・講師紹介
- ・広報協力
- ・情報提供、事例紹介等

相談対応件数 54 件
対話の機会数 105 件

③全国事業に関わる業務（仕様書番号 4-(1)-イ-(ウ)）

③-1. 全国 EPO 連絡会議

催事名	第 1 回全国 EPO 連絡会議
開催日	R4/6/14（火）
開催形式	ハイブリッド
会場	アットビジネスセンター渋谷東口駅前 （東京都渋谷区）
内容	(1) R4 年度 EPO 基盤業務の情報共有 (2) 本省からの情報共有 (3) EPO プロジェクト業務の意見交換 (4) 外部連携の情報共有 (5) 事務所会議・EPO 受託者会議

催事名	第 2 回全国 EPO 連絡会議
開催日	R4/10/11（火）～ 12（水）
開催形式	ハイブリッド
会場	熊本城ホール中会議室（熊本県熊本市）
内容	(1) EPO の事業構造・役割変化について (2) 省内外連携の展開について (3) 中期的な EPO 事業の拡張に向けた基盤強化について (4) 事務所会議・EPO 受託者会議

③-2. パートナーシップ捉え直しタスクフォース

催事名	第 1 回 PS 捉え直しタスクフォース
開催日	R4/10/5（水）
開催形式	ハイブリッド
会場	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC） （東京都渋谷区）
内容	(1) 環境教育等促進法おさらい (2) 協働取組の現場で求められる機能 (3) 協働取組がもたらす成果 (4) 今後のスケジュール共有

催事名	第 2 回 PS 捉え直しタスクフォース
開催日	R4/12/16（金）
開催形式	ハイブリッド
会場	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC） （東京都渋谷区）
内容	(1) 協働取組の現在地 (2) 社会状況の変化 (3) これからの協働取組

催事名	第 3 回全国 EPO 連絡会議
開催日	R5/1/24（火）
開催形式	ハイブリッド
会場	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC） （東京都渋谷区）
内容	(1) R4 年度のまとめ (2) R5 年度事業の予定 (3) R5 年度外部連携の予定 (4) 事務所会議・EPO 受託者会議

③-3. 地球温暖化防止活動推進センター北海道・東北ブロック会議

催事名	第1回北海道・東北ブロック会議
開催日	R4/7/12（火）
開催形式	ハイブリッド
会場	フォレスト仙台 2F 会議室（宮城県仙台市）
内容	(1) 地球温暖化防止全国ネット（全国地球温暖化防止活動推進センター）からのお知らせ (2) 情報交換

催事名	第2回北海道・東北ブロック会議
開催日	R5/1/20（金）
開催形式	ハイブリッド
会場	TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口（宮城県仙台市）
内容	(1) 事業者支援・地域センター事例報告 (2) 情報交換
備考	環境省地方環境事務所、自治体、EPO、地域センターの四者連携のもとで開催



第1回北海道・東北ブロック会議（7/12）



第2回北海道・東北ブロック会議（1/20）

④地方 EPO ネットワークとの情報交換会（仕様書番号 4-(1)-イ-(エ)

【情報共有会】

催事名	第1回情報共有会
開催日	R4/12/23（金）
開催形式	オンライン会議
内容	(1) 話題提供① 地球環境局地球温暖化対策課 課長補佐 泉勇氣氏 ・CN 宣言～脱炭素ロードマップ策定までの経緯のおさらい ・地域脱炭素に関する環境省の支援策 ・地域脱炭素における課題と可能性 (2) 話題提供② IGES サステナビリティ統合センター プログラムディレクター 藤野純一氏 ・国内外の地域脱炭素先行事例 ・地域脱炭素の実現に求められるパートナーシップと中間支援機能のあり方

催事名	第3回情報共有会
開催日	R5/3/24（金）
開催形式	オンライン会議
内容	(1) 登壇者 国連大学サステナビリティ高等研究所 プログラムマネージャー 渡邊綱男氏 自然環境局自然環境計画課 課長補佐 小林誠氏 (2) トークテーマ ① 試行認定地の実態から見てくる自然共生サイトの活用とは ② 自然共生サイトを地域に根付かせていく可能性とは ③ 自然共生サイトを地域に根付かせていく上で、EPO が果たしうる役割とは

催事名	第2回情報共有会
開催日	R5/3/16（木）
開催形式	オンライン会議
内容	(1) 話題提供 北海道、近畿、四国、九州地方事務所 ・マッチング企画の概要紹介 ・マッチング裏話 (2) 意見交換



第1回情報共有会（12/23）環境省資料より

●基本業務 事業総括

【成果】

- ・環境教育等促進法第19条1項に基づく国の拠点として、各種情報の受発信、紹介及び相談に対応した。
- ・脱炭素や生物多様性に関して各地で動きが活発になっており、国内の最新動向について積極的に情報収集を行うとともに関係者との情報交換に努め、金融機関との事業連携などこれまでにない事業展開につながった（パートナーシップ基盤強化事業報告参照）。
- ・EPO ネットワークでは協働のあり方をとらえ直す議論に取り組み、現状と課題について共通認識を持ち、今後に向けた整理が行われた。
- ・対面型の会議・催事の減少に伴い機関誌を配布する機会が減ったためこれを見直し、紙資源や業務量削減の観点から機関誌の発刊を取りやめた。事業ごとに取りまとめ資料を作成しており、これらの資料をPRツールとして活用した。

【課題】

- ・年度初めには多くの相談が寄せられたが、感染症拡大の影響で企画実施には至らず活動支援につながらなかった案件が複数あった。また、オンラインによる催行が増え、事業の共催や後援・活動支援の件数が大きく減少した。
- ・社会状況が急速に変化しており、環境活動においても活動のあり方や主体が変化している。EPO 東北にとってのパートナーや、スタッフに求められる専門性の変化に伴い、基盤業務の再設計が必要な時期を迎えている。
- ・感染症に伴う自粛およびEPO 東北事業の増加に伴い、地域ニーズを把握し事業の種の発掘につなげるためのヒアリングが実施できていない。体制とともに事業実施のあり方の見直しが課題となる。



庄内協議会ローカルSDGs学習会（4/29）



第2回PS捉え直しタスクフォース（12/16）



庄内協議会ローカルSDGs学習会（4/29）



平田牧場SDGs社内研修会（7/8）



令和4年度協働のまちづくり研修会 SDGs学習会（8/26）



平田牧場SDGs社内研修会（7/8）

3) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

①地域循環共生圏プラットフォーム事業に係る業務（仕様書番号 4-(1)-ウ-(ア)～(カ))

●事業概要

「環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業」では地域循環共生圏の創造に向け、「地域の総合的な取組となる経済合理性と持続可能性を有する構想策定及びその構想を踏まえた事業計画の策定」、「地域の核となるステークホルダーの組織化」等の環境整備に取り組む団体を公募し、採択された活動団体をブロックごとに地方 EPO が支援を行う。地域の実情に応じた地域循環共生圏の創造に活動団体とともに取り組み、支援の在り方や効果を測る指標等の検討を実践的にを行い、その結果を基に、全国で地域循環共生圏の創造を強力に推進する「地域循環共生圏づくりプラットフォーム」を構築することを目的としている。

採択：34 団体

分類	全体	東北
環境整備	新規 11 団体 継続 16 団体	1 団体 1 団体
事業化支援	7 団体	1 団体

【環境整備】

地域循環共生圏の創造に向け、「地域の総合的な取組となる経済合理性と持続可能性を有する構想策定及びその構想を踏まえた事業計画の策定」、「地域の核となるステークホルダーの組織化」の取り組みを実施する。

【事業化支援】

R 元年度から R3 年度に選定された活動団体のうち、地域の構想が策定されステークホルダーの組織化等の環境整備が十分整ったと環境省が認めた活動団体について、より具体的な事業計画を策定しローカル SDGs ビジネスを具体化するため、各分野の専門家からなる支援チームの形成・現地派遣を実施する。

【関係主体とそれぞれの役割】

区分	主体・組織	役割
活動団体	環境整備活動団体	- 環境整備に取り組む - EPO と月 1 回のコンタクト - 成果物 4 点の作成 - 会議への出席（年度当初のヒアリング、キックオフ、中間共有会、成果共有会） - ステークホルダーミーティングの開催（1 回）
	事業化支援団体	より具体的な事業計画を策定し、ローカル SDGs（地域循環共生圏）事業の具体に取り組む
	（過年度団体）	過年度フォローアップヒアリングの対象
事務局	地方事務局 地方環境事務所 EPO	- 環境整備支援 - 年度当初ヒアリングの実施と支援計画の作成 - 中間共有会の開催 - GEOC 等が主催する関連会合への参加 - 過年度活動団体のフォローアップ調査
	全国事務局 環境省地域政策課 請負者	- 事業化支援活動団体の支援 - 地域循環共生圏づくり事務局の設置と運営（Web 相談会等） - 全国プラットフォームの運営と改善 - 会議、イベントの開催（有識者会議、あり方検討 WG、フォーラム） - 地域循環共生圏創造の手引きの更新 - 地方事務局、GEOC との連携
	環境省民間活動支援室 環境省地域政策課 GEOC	- 環境整備支援の取りまとめ - 会議、イベントの開催（共有会、キックオフ、アド委員会、作業部会、成果共有会） - 地方事務局、請負者との連携

（参考）事業における用語の定義等

●地域循環共生圏（ローカル SDGs）の三原則

①環境・社会・経済課題の同時解決 ②地域の主体性 ③協働

●地域プラットフォームとは

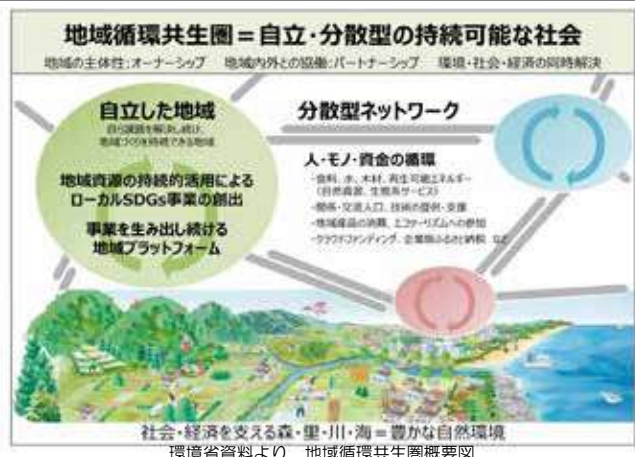
ローカル SDGs 事業が次々に生まれ育つ場

機能 1：事業主体（候補）を発掘する

機能 2：事業主体（候補）を応援して事業化に導く

●ステークホルダーミーティング

地域循環共生圏創造のため、地域で協働するステークホルダーが集い、多様な視点による活発な議論を行う場。活動団体が企画・主催する。



●事業プロセス

	事務局の会議等		活動団体へのサポート	活動団体の情報共有
	GEOC 主催会議等	東北 REO・EPO 東北	【環境整備】2 団体	【事業化支援】1 団体
4 月		≪随時≫ ・情報共有 ・支援打合せ	・ヒアリング ・活動計画打合せ	・ヒアリング
5 月	●共有会			
6 月	キックオフミーティング 6/7-8			
7 月		・適宜活動サポート	≪活動開始≫ ●定例打合せ (月 1 回)	≪活動開始≫ ●定例打合せ (年 4 回)
8 月	●作業部会 ●アドバイザー委員会			●意見交換会
9 月	(ワーキンググループ)			
10 月		●過年度フォローアップ 調査		
11 月	東北ブロック中間共有会 11/21			●意見交換会
12 月	●事業形成会議 (有識者会議)			
1 月	●作業部会 ●アドバイザー委員会		●ステークホルダー ミーティング	
2 月	(ワーキンググループ)			●意見交換会
3 月	成果共有会 3/8-9			
	(有識者会議)			

【構想策定の4つの手順と成果物】

4つの手順	成果物
①話を聞きに行く	ステークホルダーリスト
②地域のコンセプトを描く	コンセプトペーパー
③事業のストーリーを語る	事業のタネシート
④皆で目指す目標を立てる	目標シート



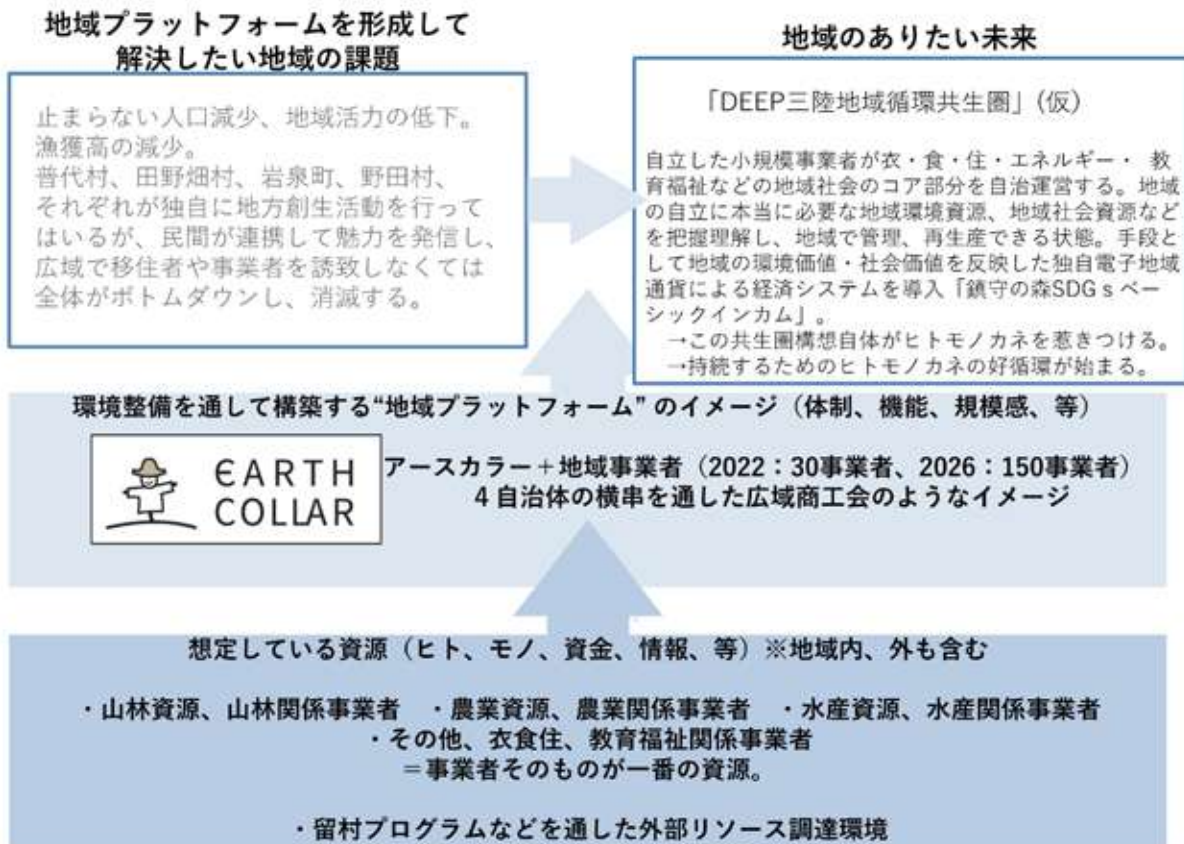
環境省資料より 地域循環共生圏の三原則

① -1. 環境整備支援《新規》株式会社アースカラー

【活動地域】岩手県普代村を中心に北岩手

【テーマ】DEEP 三陸地域循環共生圏～環境価値、社会価値を拾い上げる経済システムの構築～

【活動概要】



【ステークホルダーミーティング】

催事名	ステークホルダーミーティング
開催日	R5/2/6（月）
開催形式	対面
会場	国民宿舎くろさき荘（岩手県普代村）
内容	(1) 主旨説明 (2) 参加者自己紹介 (3) アースカラーの構想紹介 (4) 意見交換
支援内容	・企画への助言、提案 ・当日のファシリテーション ・終了後の振り返りと整理



ステークホルダーミーティング（2/6）



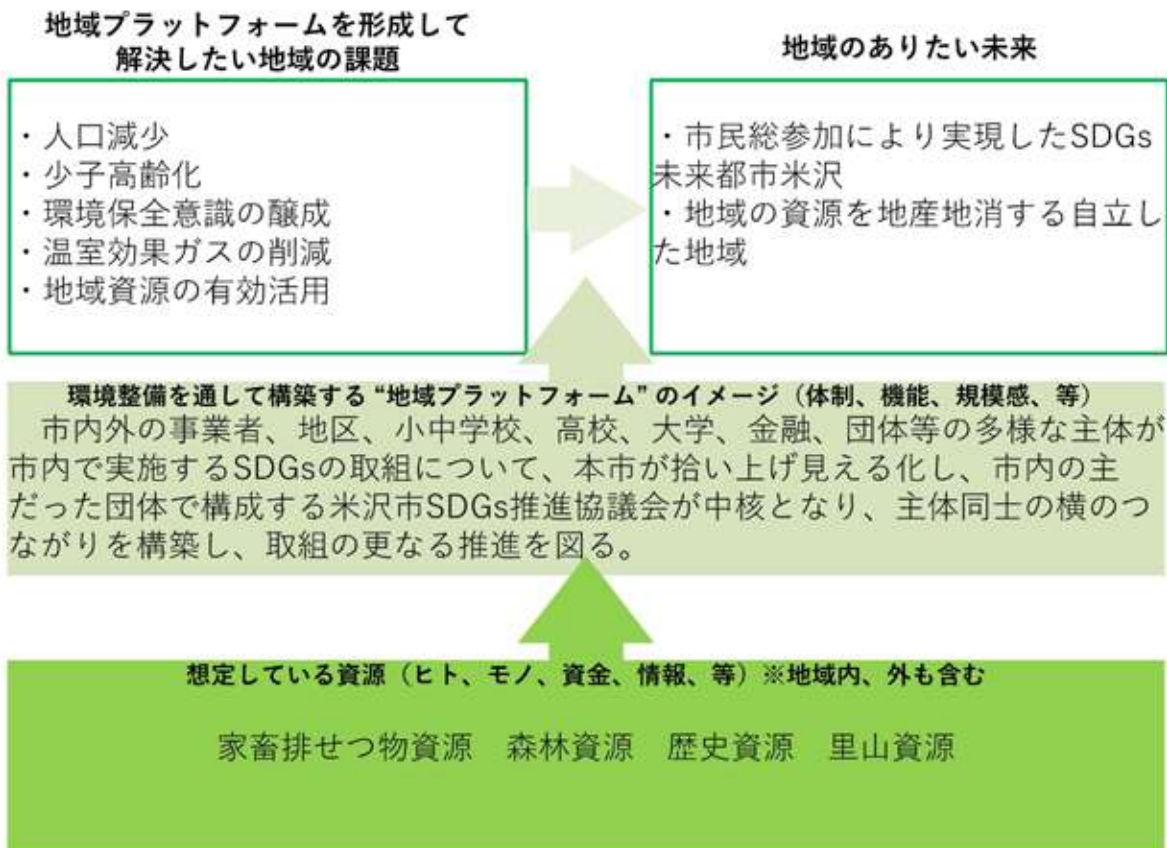
地球を感じるワークスペース「BLUE BASE FUDAI」（国民宿舎くろさき荘内）

① -2. 環境整備支援《継続》米沢市

【活動地域】山形県米沢市

【テーマ】地球に感謝！なせばなる上杉鷹山流のローカル SDGs

【活動概要】



4

【ステークホルダーミーティング】

催事名	ステークホルダーミーティング
開催日	R5/1/26（木）
開催形式	対面
会場	COGO Works（山形県米沢市）
内容	(1) 主旨説明 (2) 参加者自己紹介 (3) リアクト米沢取組み紹介 (4) 意見交換
支援内容	・企画への助言、提案 ・当日のファシリテーション ・終了後の振り返りと整理



ステークホルダーミーティング（1/26）



SDGs カンファレンス（11/28）

①-3. 東北ブロック中間共有会

※中間共有会：環境整備に取り組む活動団体間のノウハウ交流や学び合いに加え、関係者が団体の活動状況を把握するためにブロックごとに開催するもの。

催事名	東北ブロック中間共有会
開催日	R4/11/21（月）
開催形式	オンライン会議
内容	(1) 先輩団体から話題提供 ・（一社）Reborn-Art Festival（R4 年度事業化支援） ・三瀬地区自治会（R2～3 年度環境整備） (2) 環境整備団体から取組報告 ・米沢市 ・株式会社アースカラー (3) 全体ディスカッション
備考	意見交換とエクスカージョンを行う 2 日間の対面開催（宮城県石巻市）を予定していたが、東北各地で感染症が拡大傾向にあったことから東北地方環境事務所との協議のもとオンライン開催に変更した。



東北ブロック中間共有会（11/21）

①-4.GEOC が主催する会議等への参加

（ア）活動団体向けの報告会等への参加および補佐

催事名	キックオフミーティング
開催日	R4/6/7（火）、8（水）
開催形式	オンライン会議
内容	(1) オープニング 1) 『この事業で大切にしていること』 環境省大臣官房環境計画課企画調査室室長 佐々木真二郎氏 1) 『キックオフミーティングの作り方』 地球環境パートナーシッププラザ（GEOC） 江口健介氏 (2) 講演『循環する地域をつくる コーディネート機能と実践』 東近江三方よし基金 事務局 山口美知子氏 (3) 活動計画の発表 1) 継続活動団体 2) 新規活動団体 (4) 講評：全体を振り返って NPO 法人 持続可能な社会をつくる元気 ネット 理事長 鬼沢良子氏

催事名	成果報告会
開催日	R5/3/8（木）、9（金）
開催形式	対面
会場	AP 東京八重洲 11F K+L ルーム（東京都中央区）
内容	(1) オープニング (2) 成果発表とポスターセッション A ①成果発表（継続 5 団体） ②ポスターセッション B ①成果発表（継続 6 団体） ②ポスターセッション C ①成果発表（継続 5 団体） ②ポスターセッション (3) ネットワーキング（情報交換会） (4) 成果発表とポスターセッション（2 日目） D ①成果発表（新規 6 団体） ②ポスターセッション E ①成果発表（新規 5 団体） ②ポスターセッション (5) クロージング



キックオフミーティング（6/7-8）



成果報告会（3/8-9）

(イ) 事務局関係者間の会議への参加

会議名	開催日	開催形態	概要
共有会	5/17	オンライン	目的：環境整備に係る進捗状況に関する情報の共有や意見交換を行う。 参加：環境省地域政策課・民間活動支援室、地方環境事務所、GEOC、地方 EPO、請負者
作業部会	8/18	ハイブリッド	目的：環境整備のプロセス分析や加速化の方策検討などの意見交換を地域の伴走支援者である 地方 EPO 間で行い、地域プラットフォームの進捗を測る指標について議論する。 参加：地方 EPO、環境省地域政策課・民間活動支援室、GEOC 傍聴：地方環境事務所、アドバイザー委員
	1/13		
アドバイザー委員会	8/23	ハイブリッド	目的：本事業における環境整備過程のプロセス分析や加速化の方策検討などの意見交換を行う。 参加：アドバイザー委員、環境省地域政策課・民間活動支援室、GEOC 傍聴：地方環境事務所、地方 EPO、請負者
	1/13		
事業形成会議	12/13	オンライン	目的：環境整備に係る進捗状況に関する情報の共有や意見交換を行う。 参加：環境省地域政策課・民間活動支援室、地方環境事務所、GEOC、地方 EPO、請負者

(ウ) その他会議および催事へのオブザーブ参加

会議名	開催日	開催形態	概要
有識者会議	12/1	オンライン	目的：環境整備及び支援チーム派遣等を行う団体の選定、継続の要否を検討し、プラットフォーム事業の全体像について意見を頂戴する。 参加：有識者会議委員、環境省環境計画課、事務局（請負者） 傍聴：GEOC、地方環境事務所、地方 EPO
	3/27		
ワーキンググループ	9/22	オンライン	目的：支援スキームづくり等を検討するとともに、プラットフォームの機能、運営方法等についても見直し、改善を図る。 参加：委員、環境省環境計画課、事務局（請負者） 傍聴：GEOC、地方環境事務所、地方 EPO
	2/10		



米沢市 打ち合わせ (5/18)



事業形成会議 (12/13)



作業部会 ワークショップによる整理 (8/18)



アドバイザー委員会 (1/13)

① -5. 事業化支援団体の活動の情報共有

【活動団体】（一社）Reborn-Art Festival

【活動地域】宮城県石巻市

【テーマ】ワクワクする循環を増やす。

挑戦できるまち、石巻

【活動概要】

- リボンアート・フードセッションと未利用魚を活用した商品開発
 - ・未利用魚カレンダーの制作
 - ・持続可能な食の取組や現場を体験する「フードアドベンチャー」の実施
 - ・会社設立を視野にプロデュース準備室を運営
 - ・地域資源を活かした商品開発
 - ・学び合いの場創出
- もののうらビレッジを拠点としたサステナブル津の環境整備
 - ・2017年に「みんなで少しずつ作っていく」研修施設として誕生。オフグリッド体験のできる新宿泊棟やトイレ環境を整備
 - ・サステナブルツーリズムの魅力を紹介するWEB制作
 - ・地域住民やローカルベンチャーとともにサステナブルツーリズムのコンテンツ開発
 - ・ファムトリップの実施
 - ・ユーザー、旅行商品に関するターゲット文責・マーケティング

【EPO 東北の関わり】

- ・進捗状況の把握のためにヒアリングや定例ミーティングに同席した。
- ・東北ブロック中間共有会では先輩団体として参加いただき、環境整備団体に対して積極的にコメントや助言等ご発言いただいた。

ヒアリング		4/21	オンライン
定例 ミーティング	第1回	7/28	
	第2回	11/11	
	第3回	12/27	
	第4回	3/24	
	第1回	8/10	
意見交換会	第2回	2/16	対面 / 佐賀
意見交換合宿		11/24-25	



宮城県

地域振興／復興につながる循環 ー地域に新しいつながりを作っていくことー



Reborn-Art Festival



Reborn-Art Festival のシンボルになっている大きな鹿のオブジェ



鹿肉シャルキュトリ（ジビエのソーセージ、ハンバーグ）



牡鹿半島鹿猟フードアドベンチャー

① -6. 支援終了団体のフォローアップ調査

【調査対象】三瀬地区自治会（山形県鶴岡市）

【活動年度】R2～3年度

【団体の状況】

- ・再生可能エネルギー推進地域協議会の設置に向けて活動を継続中である。
- ・自然体験事業はR4年4月に「日承循環（にっしょうじゅんかん）合同会社」を設立した。教育旅行の受け入れ、地元DMOや旅行業者との連携を行っている。

【EPO東北の関わり】

- ・継続して情報提供や相談対応を行った。
- ・東北ブロック中間共有会では先輩団体として参加いただき、環境整備団体に対して積極的にコメントや助言等ご発言いただいた。



八森山（はちもりやま）に建設された風力発電

●事業総括

【成果】

- ・中間共有会はオンライン開催となったものの、事業化支援団体や過年度の活動団体から経験に基づいた助言等があり、環境整備に取り組む活動団体から「参考になった」「勇気づけられた」と好評を得た。過年度の環境整備団体と良好な関係が築けていること、また会の意図を十分に理解して協力を得られた点が大きく作用した。
- ・地域に応じて様々なプラットフォームの形があり、多くの活動事例を見ることでノウハウの蓄積と支援の質の向上につながった。

【課題】

- ・本事業への採択を通して初めてEPO東北と連携する団体とは関係構築が最初の課題となる。オンライン会議やメール、電話等では踏み込んだ議論には至らず、対面での打合わせを併用したい一方で（株）アースカラーは岩手県普代村を拠点としており仙台からの移動に片道5～6時間程度かかるため地理的な要因が大きな弊害となった。
- ・活動団体への支援の他に事務局の会議が多く、過去の伴走支援事業と比べて業務普段が大きい。
- ・伴走支援が行えるコーディネーターの確保、育成が今後の課題である。



アースカラー ヒアリング（4/22）



米沢市 ゼロカーボンシティ推進シンポジウム（11/27）



事業化支援 意見交換会（8/10）



成果報告会（3/8-9）

②森里川海生態系ネットワーク形成会合の開催（仕様書番号 4-(1)-ウ-(キ))

●プロジェクト概要

2030 年までの新たな国際目標「30by30」では、世界の陸域・海域の 30%の保護を目指して 23 項目の個別目標が盛り込まれた。国内では「30by30 ロードマップ」を策定し、有志の企業・自治体・団体による有志連合「30by30 アライアンス」が発足した。地域における保護地域と、保護地域以外で生物多様性の保全に資する地域（OECM：Other Effective area-based Conservation Measures）による生態系ネットワーク化の推進が重要視されており、EPO 東北では地域の関係者へのヒアリングおよび情報交換会を実施した。

●事業目的

生物多様性の価値の認識を高め、多様な主体の連携・協働のもとで具体的な取組を進めることが求められており、地域の協働を支援する観点で国が設置した拠点としての EPO の役割に期待が寄せられている。生物多様性の認知度は上昇傾向にあるもののボランティア活動としての「自然や環境を守るための活動」に参加している割合は 3%と低く（2021 年社会生活基本調査（総務省統計局）より）、ニーズを把握するための情報収集を行った。

情報収集の中で「改めて勉強したい」との声が寄せられたことから、次年度に向けて関心層および関心度を把握するために、生物多様性が注視されている背景と国際枠組み及び国内施策について発信した。



●達成目標

- ・関係者へのヒアリング、情報交換の機会を通して地域ニーズを把握する。
- ・生物多様性および 30by30 に関する情報発信を行い、東北ブロックにおける関心層および関心度を把握する。

●EPO 東北のアプローチ

- ・東北地方環境事務所と協働し、国内の最新動向や地域へのヒアリング内容等について情報共有を行いながら企画検討を行った。
- ・せんだい・みやぎ NPO センターより環境分野における動向や、今日に至る背景について勉強したいと相談を受け、今後の連携を見据えた意見交換の機会を設けた。
- ・限定的な対象に絞った少人数型の意見交換、広く情報発信を行うセミナー、メディア関係者と連携した情報発信など、様々なアプローチを検討し企画について東北地方環境事務所と協議を行った。
- ・30by30 アライアンスに登録して情報の収集に努めた。

●事業プロセス

	東北地方環境事務所	企画の実施	他
7月	《随時》情報交換 ●事務局勉強会・意見交換	○相談	《随時》 ●ヒアリング ●情報収集
8月		○企画打合せ	
9月	●検討会の傍聴	●勉強会兼意見交換会（2 か所）	●大崎市ヒアリング
10月		○企画提案・協議	
11月	●本省・地方事務所 意見交換会傍聴		●大崎市 SDGs セミナー ※東北地方環境事務所が話題提供
12月			
1月		○企画調整	
2月		○企画打合せ ●収録	●次期生物多様性国家戦略（案）説明会
3月		●アーカイブ配信（期間限定）	●大崎市ネイチャーポジティブシンポジウム



②-1. 仙台市・多賀城市市民活動サポートセンターとの勉強会

開催概要

催事名	仙台市・多賀城市市民活動サポートセンターとの勉強会	
第1回	開催日	R4/9/21（水）
	開催形式	対面
	会場	多賀城市市民活動サポートセンター（宮城県多賀城市）
	参加者	14名
第2回	開催日	R4/9/28（水）
	開催形式	対面
	会場	仙台市市民活動サポートセンター（宮城県仙台市）
	参加者	24名
主催	EPO 東北 NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター	
内容	せんだい・みやぎ NPO センターが指定管理を受ける2か所の市民活動サポートセンターのスタッフと勉強会兼意見交換会を行った。 (1) EPO 東北から話題提供「環境課題の変遷」 (2) 意見交換	



多賀城市市民活動サポートセンタースタッフ勉強会兼意見交換会（9/21）



仙台市市民活動サポートセンタースタッフ勉強会兼意見交換会（9/28）

②-2. 生物多様性に関する情報発信

開催概要

催事名	動画「生物多様性とSDGs -いのちの関わりと世界と日本の目標、わたしたちの暮らし-」
収録日	R5/2/27（月）
配信期間	R5/3/1（水）～15（水）
開催形式	アーカイブ配信
参加者	YouTube 視聴回数 101 回
主催	EPO 東北
協力	オフィス e
内容	トークテーマ「生物多様性とSDGs」 【話し手】EPO 東北 鈴木美紀子 【聞き手】オフィス e 鈴木悦子



アーカイブ配信「生物多様性とSDGs」（3/1～15）



「生物多様性とSDGs」スタジオ収録（2/27）

●事業総括

【成果】

- 地域の動きや関心度についてヒアリングを行った。この動きから派生して大崎市と東北地方環境事務所の協力関係が生まれた他、せんだい・みやぎ NPO センターとの勉強会兼意見交換の実施に至った。今後も定期的に情報交換を行い、事業連携を模索したい。

【課題】

- 年度初めに生物多様性ロードマップが策定されたが自然共生サイトについて登録を促す段階にはなく、EPO 東北はどの属性に対してどんな働きかけをするべきかニーズの把握も不足しており事業の方向性が定まらなかった。
- 試験的に動画配信を実施したがアンケート回収率は低く、別途関係者へのヒアリングを行う等してニーズを把握することが課題となる。

③地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業（仕様書番号 4-(1)-ウ-(ク)）

●プロジェクト概要

2050 年カーボンニュートラルの実現に向けては、地域における再生可能エネルギーの普及拡大、脱炭素に向けたイノベーションの創出、企業による脱炭素経営、ESG 金融等を推進していく必要がある。多様な主体による連携・協働を推進する国の拠点として、重層的なネットワーク構築が求められており、地域の金融機関、経済団体等、地域循環共生圏創造の推進主体と成り得る関係機関とのネットワーク形成に取り組んだ。

●事業目的

脱炭素ロードマップが策定されて以降、自治体や中小企業の関心が高まっている一方で具体的な取組推進に向けて何をしたらよいかわからないとの声があがっており、具体事例を求めるニーズが高い。このため関係機関とのネットワーク形成を目的に地域の主体と連携・協働し、ニーズに合致した情報交換会やセミナーの開催を支援した。

●達成目標

- ・地域の金融機関、経済団体等の参加する情報交換会を開催する。
- ・これまで関係性の弱かった金融機関や経済団体等を中心に EPO 東北が持つネットワークの重層化を図る。

●EPO 東北のアプローチ

- ・【青森】青森県・市地球温暖化防止活動推進センター、青森県と連携し、青森市、弘前市の 2 か所で ESG 金融をテーマとする中小企業向けセミナーを開催した。
- ・【宮城】七十七銀行と連携してセミナーを開催した。開催後も担当者との情報交換を継続したことで、七十七銀行が自治体に向けに主催するテーマ別勉強会における意見交換の支援につながった。
- ・【秋田】R3 年度に ESG 金融フォーラムを開催した秋田県で、その後のフォローアップを兼ねたオンライン意見交換会を（一社）あきた地球環境会議と連携して開催した。

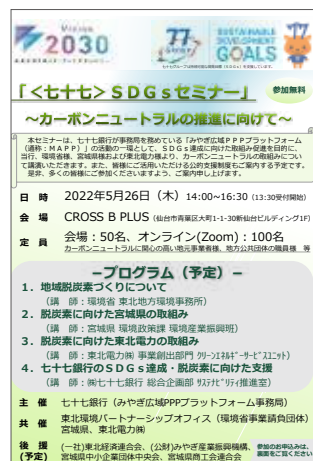
●事業プロセス

	青森県	宮城県	秋田県
4 月	●ヒアリング	○企画打合せ ○企画調整	○企画打合せ
5 月		●SDGs セミナー	
6 月			
7 月		○振り返り意見交換	
8 月	○企画打合せ	●テーマ別勉強会の支援	
9 月			
10 月	●ESG 金融セミナー		
11 月	○企画調整		
12 月			○企画調整
1 月	●ESG 金融セミナー		●意見交換会
2 月			

③ -1. 七十七銀行 SDGs セミナー

開催概要

催事名	七十七銀行 SDGs セミナー ～カーボンニュートラルの推進に向けて～
開催日	5/26 (木)
開催形式	ハイブリッド開催
会場	CROSS B PLUS (宮城県仙台市)
参加者	101 名 (会場 46 名、オンライン 55 名)
主催	七十七銀行
共催	EPO 東北、宮城県、東北電力 (株)
後援	(一社) 東北経済連合会、(公財) みやぎ産業振興機構、宮城県中小企業団体中央会、宮城県商工会連合会
内容	(1) 話題提供 1) 「地域脱炭素づくりについて」 環境省東北地方環境事務所 地域脱炭素創生室 室長補佐 原田和昭氏 2) 「脱炭素に向けた宮城県の取組み」 宮城県環境政策課環境産業振興班 環境産業コーディネーター 仲丸一樹氏 3) 「脱炭素に向けた東北電力の取組み」 東北電力 (株) 事業創出部門 クリーンエネルギーサービスユニットマネージャー 佐藤亮氏 4) 「七十七銀行のSDGs達成・脱炭素に向けた支援」 (株) 七十七銀行 総合企画部 サステナビリティ推進室 サステナビリティマネージャー 鈴木拓郎氏 (5) 質疑応答



七十七銀行 SDGs セミナー (5/26)

開催概要

催事名	MAPP (みやぎ広域 PPP プラットフォーム) 第3回テーマ別勉強会～カーボンニュートラル・自治体 DX の推進に向けて
開催日	8/23 (火)
開催形式	ハイブリッド開催
会場	七十七銀行本店 (宮城県仙台市)
参加者	約 70 名
主催	七十七銀行
協力	EPO 東北
内容	(1) 講演 1) 「脱炭素化と電力の地産地消について」 株式会社トラストバンク 取締役 福留大士氏 2) 「脱炭素にかかる取組事例について ～水素スマートシティ神戸構想」 神戸市環境局環境創造課 エネルギー政策担当係長 森和也氏 3) 「カーボンニュートラル とその取組支援 について」 MS ADインターリスク総研 株式会社 リスクマネジメント第一部コンサルタント 関棕也氏 (2) 意見交換会 備考 意見交換の際に EPO 東北からも情報提供等を行った。



MAPP 第3回テーマ別勉強会 (8/23)

③ -2. あおもり中小企業のための ESG 金融・脱炭素経営に関するセミナー

開催概要

催事名	あおもり中小企業のための ESG 金融・脱炭素経営に関するセミナー
開催日	R4/10/28 (金)
開催形式	対面
会場	青森県男女共同参画センターアピオあおもり イベントホール (青森県青森市)
参加者	55 名
主催	青森県地球温暖化防止活動推進センター、青森市地球温暖化防止活動推進センター、青森県
共催	EPO 東北
後援	青森市、青森商工会議所、青森県商工会議所連合会
内容	(1) 基調講演①「地域社会の脱炭素化に向けて」 環境省大臣官房環境経済課環境金融推進室 課長補佐 藤田梨恵子氏 (2) 基調講演②「金融行政・地域金融機関の取り組み」 財務省東北財務局理財部長 田村嘉啓氏 (3) 基調講演③「地方金融機関の ESG と SDGs の取り組みについて」 盛岡信用金庫企画部 部長 高木恵証氏 (4) 地域事例紹介「カーボンオフセット プロパンガス販売認定事業者として」 株式会社白鳥プロパン 代表取締役 白鳥五大氏 (5) 意見交換・名刺交換等
感想 (抜粋)	・国、金融機関、民間のそれぞれの視点から ESG 金融・脱炭素にかかる取組みを理解できた。 ・様々な制度のご紹介や事例のご紹介もいただきヒントが得られました。また、取引先企業に対する助言の際にも役立ちそうな情報も得られ、有意義でした。 ・顧客の獲得や、企業の発展等には、ESG や SDGs を取り入れた経営や商品が必要になることが、あらためて理解できました。 ・中小企業への支援態勢も充実しているのが良くわかった。 ・具体的な取り組み内容は非常に興味深く、今後、当社での取り組み参考になりました。

催事名	あおもり中小企業のための ESG 金融・脱炭素経営に関するセミナー
開催日	R5/1/17 (火)
開催形式	対面
会場	弘前商工会議所会館大ホール (青森県弘前市)
参加者	38 名
主催	青森県地球温暖化防止活動推進センター、青森市地球温暖化防止活動推進センター、青森県
共催	EPO 東北
後援	弘前市、弘前商工会議所、青森県商工会議所連合会
内容	(1) 基調講演①「地域社会の脱炭素化に向けて」 環境省東北地方環境事務所地域脱炭素創生室 室長 井上直巳氏 (2) 基調講演②「金融行政・地域金融機関の取り組み」 財務省東北財務局理財部長 田村嘉啓氏 (3) 基調講演③「ESG 金融と東北地域における取組状況」 (株) 日本政策投資銀行東北支店 次長兼青森事務所長 星憲太郎氏 (4) 地域事例紹介「東北リサイクル業界のリーディングカンパニーとして」 (株) 青南商事 代表取締役 安東元吉氏 (5) 意見交換・名刺交換等
感想 (抜粋)	・気候変動に対する課題の多さに驚くと同時に、私達が取り組むべく問題の再認識をさせられた感じがした。 ・ESG 投資について、投資家、金融機関、企業の各立場からの見方がよくわかった。投資家の評価と ESG の重要性はまだ紐づいていないことまで、イメージができた。 ・他地域での先進的な事例でしたが、青森県内の各市町村規模でも取り組んでいける活動もあるように感じた。 ・地域の特色を踏まえた取り組みを行政、企業、地域金融機関、大学(高校)などステークホルダーと検討していければ良いと思いました。 ・各地域それぞれに趣向をこらした事業を展開していることをはじめて知りました。サーキュラーエコノミー型社会への変換は特に興味深くさせていただきました。



ESG 金融・脱炭素経営に関するセミナー青森会場 (10/28)



ESG 金融・脱炭素経営に関するセミナー弘前会場 (1/17)

③ -3. 令和 4 年地域循環共生圏 ESG 金融フォローアップ研修会

開催概要

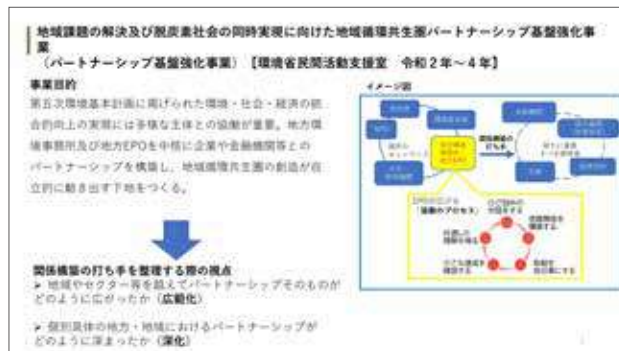
催事名	令和 4 年地域循環共生圏 ESG 金融 フォローアップ研修会
開催日	R5/2/6 (月)
開催形式	オンライン会議
参加者	16 名
主催	(一社) あきた地球環境会議、EPO 東北
内容	(1) 講演「北都銀行の ESG 地域金融の取組み」 (株)北都銀行 営業推進部地方創生室 シニアマネージャー 佐藤貴幸氏 (2) 意見交換
感想 (抜粋)	・自社の再エネ宣言、課題から逃げない事、地元の方たちへの説明など、地道な部分も多くあると感じました。ビジネスにつなげていることに本当に素晴らしいと思いました。 ・秋田は再エネ（特に風力発電）においては全国トップクラスであり先駆的な存在ですが、北都銀行さんがいち早くプロジェクトファイナンスの組成に取り組んだ先見の明のお陰であることがよくわかりました。 ・「地域の課題から逃げない！」心に残りました。
備考	R3 年度に秋田市で開催した地域循環共生圏 ESG フォーラムの参加者を対象とするフォローアップ研修



令和 4 年地域循環共生圏 ESG 金融フォローアップ研修会 (2/6)

③ -4. パートナースhip情報の授受等について

- ・パートナーシップ基盤強化事業の枠組みで行った主たる会合・イベントについて、地方 EPO に対してアンケートが行われ、協力した。
- ・全国的な状況、各地方 EPO における取組状況については連絡会等の機会に情報共有が行われた。



地域課題の解決及び脱炭素社会の同時実現に向けた地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業成果まとめ (R2～R4)
作成：地球環境パートナーシッププラザ (GEOP)、環境省民間活動支援室

●事業総括

【成果】

- ・本業務については過年度にも様々な試行錯誤を重ねてきたが、EPO 東北が主体的に動くのではなく地域に密着している団体との協働によって地域の各主体を巻き込むことができた。今後もパートナーシップ団体との連携・協働が欠かせない。
- ・青森市で開催したセミナーは参加者から非常に好評で、これを受けて弘前市で同様のセミナーを開催するに至った。パートナーシップ団体と連携することで地域ニーズに合致したセミナーを行うことができた。

【課題】

- ・金融機関との連携について過年度より取り組みを継続してきたが、目的や方向性は合致するものの具体的な事業連携には至っていない。属性の違いによる取組み方、考え方等の違いが壁になっていると捉えており、連携のあり方は引き続き模索が必要である。
- ・本年度は七十七銀行との連携が生まれたものの、担当者異動により関係性の再構築が必要である。

④パートナーシップ団体情報交換会等の開催（仕様書番号 4-(1)-ウ-（ケ））

●プロジェクト概要

EPO 東北では東北各地で各事業を展開するにあたり、地域の窓口となる団体を「パートナーシップ団体」と定義している。日頃から情報交換を行う他、地域事情や国内の最新動向について共有する対面形式の情報交換の機会を設けた。

パートナーシップ団体

1	NPO 法人青森県環境パートナーシップセンター
2	NPO 法人環境パートナーシップいわて
3	NPO 法人環境あきた県民フォーラム
4	（一社）あきた地球環境会議
5	（公財）みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
6	NPO 法人環境会議所東北
7	NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター
8	NPO 法人環境ネットやまがた
9	NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク

●事業目的

- ・脱炭素に関して東北各地の状況について共有する。
- ・EPO 東北と各団体との今後の連携のあり方を模索する。

●達成目標

- ・EPO 東北が介在して情報やノウハウ等、知見の共有が定着化する。
- ・他地域の状況や対応について学びを持ち帰り、今後の対応の参考とする。
- ・脱炭素をテーマとした事業においても、EPO 東北との連携・協働に向けた動機づけが行われる。



パートナーシップ団体情報交換会（7/12）

●EPO 東北のアプローチ

- ・脱炭素をテーマとした取組みの加速化を受けて、EPO ネットワークでは地球温暖化防止活動推進センター（以下、「温対センター」）ブロック会議との連携を図る試みが行われた。東北ブロックでは温対センターの指定を受ける団体がパートナーシップ団体として会議に参加することから、温対センター北海道・東北ブロック会議と調整し、同日に会議を実施した。
- ・脱炭素や生物多様性に関して新たな枠組みが登場し話題となる一方で、まとまった情報の取得や勉強の機会がないことから、改めて押さえておきたいキーワードと背景を整理して情報提供を行った。

開催概要

催事名	パートナーシップ団体情報交換会
開催日	R4/7/12（火）
開催形式	対面
会場	フォレスト仙台 2F 第5・6会議室 （宮城県仙台市）
参加者	28名
主催	EPO 東北
内容	(1) 自己紹介と話題提供（脱炭素に関する最近の動向について） (2) 話題提供①「地域脱炭素に向けた東北地方の動き」 東北地方環境事務所 地域脱炭素創生室 室長補佐 原田 和昭氏 (3) 話題提供②「EPO 東北まわりの最新キーワードについて」 EPO 東北 鈴木美紀子 (4) 全体ディスカッション
主な意見	・過去にさまざまな仕掛けを行ったものの、具体的な取組み創出には至らなかった。セミナーの参加人数が多いことではなく、本気の人とつながることが重要と学んだ。 ・どう動いたら良いかわからないという中小企業が多く、企業が取り組む意義やアプローチの仕方を啓発する時期ととらえている。 ・国際的な取組み推進を背景にして国内での動きが加速化している一方で、専門用語や略語が多くコミュニケーションギャップが生まれている。

●事業総括

【成果】

- ・世界および国内の最新情報の共有があったことに対し高い評価が寄せられた。条約を背景にした国際動向や、世界の動きに合わせた国内施策について情報をアップデートする機会がなく、ニーズが高いことが判明した。
- ・ニーズが確認できたことで、次の展開につなげる足掛かりができた。

【課題】

- ・時間の制約があり議論の深まりに欠けた。午後に温対センターブロック会議が予定されており、参加メンバーが重複することから会議の役割を明確にする必要があった。
- ・温対センターは「北海道・東北」のブロック分けであることから、EPO 北海道とEPO 東北間で情報共有を行い、円滑なコミュニケーションを図る必要がある。

4) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化

①みちのく薪びと祭り Stage2in 三瀬（仕様書番号 4-(1)-エ）

●プロジェクト概要

EPO 東北では地域開催型交流会としてH26(2014)年度より「みちのく薪びと祭り」を開催してきた。持続可能な暮らしや地域のあり方をテーマにした相互交流と学びの場として企画しており、東北らしい協働型事業として定着してきた。東北を一巡した後に感染症の流行を受けて開催を自粛していたが、R4 年度は開催規模の縮小および参加者を限定するなど感染予防に配慮しながら新しいスタイルのみちのく薪びと祭りを模索した。

●事業目的

社会のあり方や価値観が大きく変容する中で、『薪』を入口とした持続可能な暮らしや地域の持続性、薪をテーマにする活動のあり方について考え方を整理し、とらえ直すことが課題となっている。薪をエネルギーとして活用し、資源や人、経済の地域循環に取り組む主体が相互に学び合い、交流する機会を通して参加団体の活動の活性化を図る。

「みちのく薪びと祭り」の運営においては若手ステークホルダーの参画を促すとともに、新しい開催スタイルへの移行を試みる。

●事業プロセス

	みちのく薪びと祭り
4月	○企画打合せ ○企画調整
5月	
6月	
7月	●キーパーソン会議
8月	
9月	
10月	●みちのく薪びと祭り
11月	
12月	
1月	●次年度に向けた調整



打合せ（9/27）

●達成目標

- ・若手の参画を得て今後に向けた新たなパートナーシップが形成される。
- ・三瀬地区の変遷を参考に、参加者が多様な主体との連携・協働のあり方を学ぶ。
- ・社会変容のとらえ方や今後に向けた考えを共有・議論し、参加者がこれからの取組みのあり方を見直すきっかけを作る。
- ・R5 年度の開催に向けて開催地や開催形態、方向性について合意が図られる。

●EPO 東北のアプローチ

- ・キーパーソン会議に新たなメンバーの参画を促した。
- ・過去の開催スタイルに捕われず、キーパーソンの意見を参考に当日のプログラムを検討した。
- ・開催地のキーパーソンである三瀬地区自治会は、環境省 PF 事業の過年度採択団体であることから事業フォローアップにも留意した。

キーパーソン

1	薪ストーブ愛好会くべる部
2	青森大学附属総合研究所観光文化研究センター
3	青森大学 SDGs 研究センター
4	ニツ井宝の森林（やま）プロジェクト
5	NPO 法人遠野エコネット
6	NPO 法人しんりん
7	株式会社 百
8	つるおか薪倶楽部
9	鶴岡市三瀬地区自治会
10	ふくしま薪ネット
11	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）

催事名	キーパーソン会議
開催日	R4/7/13（水）
開催形式	オンライン
参加者	16 名
主催	EPO 東北
内容	(1) 参加者自己紹介 (2) 今年度の薪びと祭り開催について ①開催日調整・確定 ②企画内容の議論

催事名	次年度開催地（岩手県） キーパーソンヒアリング
開催形式	対面
団体名	開催日
遠野市 遠野エコネット 千葉和氏	R5/1/5（木）
花巻市 薪割リスト 深澤光氏	R5/1/6（金）
釜石市 （一社）ゴジョる 菊地隼氏	R5/1/6（金）

開催概要

催事名	みちのく薪びと祭り Stage2 in 三瀬
開催日	R4/10/21（金）～ 22（土）
開催形式	対面
会場	三瀬コミュニティセンター、八森山、ひゃくねん森（山形県鶴岡市）
参加者	61 名
主催	三瀬地区自治会、EPO 東北
共催	EPO ちゅうごく
協力	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）
内容	1 日 目 (1) オリエンテーション ①「みちのく薪びと祭り」について紹介 ②参加者紹介 ③趣旨説明 (2) 意見交換 1) トークテーマ① 「コロナ禍で変わった価値観とは？」 【話題提供】三瀬地区自治会 石塚慶氏 【意見交換】フィッシュボウル形式 【感想共有】3 人 1 組を作って感想共有 2) トークテーマ② 「未来のビジョンをどう描く？」 【話題提供】東北芸術工科大学デザイン工学部建築・環境デザイン学科 教授 三浦秀一氏 【意見交換】フィッシュボウル形式 【感想共有】3 人 1 組を作って感想共有 3) トークテーマ③ 「次の担い手とどうつながる？」 【話題提供】青森大学社会学部教授 SDGs 研究センター長 藤公晴氏 【意見交換】フィッシュボウル形式 【感想共有】3 人 1 組を作って感想共有 (3) 1 日目全体振り返り 2 日 目 (1) フィールドワーク 三瀬地区の活動現場見学 ①八森山風力発電 ②ひゃくねん森 (2) クロージング 【全体講評】 東北大学名誉教授 新妻弘明氏
備考	フィッシュボウル形式：外側の円の人々が中心の円で行われている対話を眺める対話の手法。
メディア掲載	荘内日報 R4/10/23 掲載 山形新聞 R4/11/1 掲載

感想 (抜粋)

- ・講演会とは違い一方向ではなく参加者全員が主役になれる形があった。前に出て意見を言いにくい人でも、3 人 1 組での共有によって発言と意見の整理ができていた。
- ・薪に関することだけではなく、地域のあり方についても考えるきっかけになった。
- ・現場で活動されている方の取組みを伺って大変勉強になりました。協働のコツや人を巻き込む方法を学べたので、業務に活かしたいと思います。
- ・対面の良さは気軽に色々な人と交流できることと思います。今回も予想していなかった出会いがたくさんあり、大事な経験ができました。
- ・一緒に活動する中で先輩方から学び、大切なことを感じることが人を育てることにつながるとのお話に共感しました。「楽しいことを一緒にする」視点を大切にしたいです。



みちのく薪びと祭り（10/21-22）



みちのく薪びと祭り（10/21-22）

●事業総括

【成果】

- ・学生や地域おこし協力隊、若手が中心となった団体など新たな層の参加があり、幅広い年齢層による意見交流を行うことができた。
- ・フィッシュボウル形式による対話と 3 人 1 組で感想共有を繰り返す進行とした。参加者全員が発言する時間を設けることで主体性が生まれ、多世代が集う中でも活発なコミュニケーションが行われた。
- ・開催地のフィールドワークを実施することでより具体的に地域の活動を学ぶプログラムとなった。

【課題】

- ・フィールドワークで予定していたガイド役および自治会関係者が都合により急遽欠席となり、八森山風力発電を見学してもらった意図や、地域・森林・薪と風力の関係性について説明不足となった。
- ・過去の企画ではで分科会の進行をキーパーソンが担ったがフィッシュボウル形式を採用したことで役割がなくなり、「キーパーソン」の名称を含め今後の協働のあり方の見直しが課題となる。
- ・宿泊を伴う企画のため参加者の把握や諸手配に関する事務負担、同規模の事業の増加により事務局の負担が課題となっている。

【Ⅲ. 事業報告】 4. 事業実施報告

(2) 東北地方 ESD 活動支援センター業務

1) 運営

①企画運営委員会の開催運営（仕様書番号 4-(2)-ア）

●名簿（敬称略、順不動）

	氏名	所属・役職
委員長	見上一幸	(公社) 仙台ユネスコ協会 会長 宮城教育大学 名誉教授
副委員長	渋谷晃太郎	岩手県立大学 研究・地域連携 本部 地域連携コーディネーター
委員	浅野亮	気仙沼市・宮城教育大学連携セ ンター主任運営員（運営統括）
	市瀬智紀	宮城教育大学教育学部 国際教 育領域 教授、ESD/ ユネスコス クール・東北コンソーシアム運 営委員長
	齋藤修一	只見町教育委員会 元教育長
	福岡真理子	(一社) あきた地球環境会議 事 務局長、地域 ESD 活動推進拠 点
	中村公一	岩手県環境生活部環境生活企画 室 企画課長
	大内伸	宮城県環境生活部環境政策課 課長

●情報共有会

開催日	R4/10/7（金）
会場	オンライン会議
参加者	12 名（委員 4 名）
内容	(1) 東北 ESD/SDGs フォーラム ①企画概要説明 ②意見交換 (2) ESDfor2030 学び合いプロジェクト 進捗共有

●開催

第 1 回 EPO 東北事業検討委員会並びに第 1 回東北地 方 ESD 活動支援センター企画運営委委員会	
開催日	R4/6/6（月）
会場	オンライン会議
参加者	26 名（委員 6 名、代理出席 1 名）
内容	(1) EPO 東北事業検討委員会 ①議長選出 ② R4 年度事業計画について ③意見交換 (2) 東北地方 ESD 活動支援センター企画 運営委員会 ①議長選出 ② R4 年度事業計画について ③意見交換 (3) 全体意見交換
第 2 回 EPO 東北事業検討委員会並びに第 2 回東北地 方 ESD 活動支援センター企画運営委委員会	
開催日	R5/2/9（木）
会場	ハイブリッド 仙都会館（宮城県仙台市）
参加者	28 名（委員 7 名、代理出席 1 名）
内容	(1) EPO 東北事業検討委員会 ①令和 4 年度事業報告 ②意見交換 (2) 東北地方 ESD 活動支援センター企画 運営委員会 ①令和 4 年度事業報告 ②意見交換



第 2 回東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委委員会（2/9）



第 2 回東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委委員会（2/9）

2) 基本業務

① ESD 活動に関する相談及び支援窓口（仕様書番号 4-(2)-イ）

共催

No.	開催日	開催地	主催	催事名等	開催形式
1	6/10	宮城県 気仙沼市	気仙沼市教育委員会 気仙沼 ESD/RCE 推進委員会	第 1 回気仙沼 ESD/ ユネスコスクール研修会	対面
2	8/6	宮城県 仙台市	ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム	2022 年度コンソーシアム第 1 回 SDGs セミナー	ハイブリッド
3	10/1	宮城県 仙台市	ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム	2022 年度コンソーシアム第 2 回 SDGs セミナー	ハイブリッド
4	11/4	宮城県 気仙沼市	気仙沼市教育委員会、 宮城教育大学 ESD/ ユネスコスクール・東北 コンソーシアム、気 仙沼 ESD/RCE 推進 委員会	気仙沼 ESD/RCE 円卓会議 2022	対面
5	12/17	宮城県 仙台市	文部科学省・日本ユネ スコ国内委員会、宮城 教育大学	2022 年度ユネスコスクール東北ブロック大会 児童生徒の探求型学習・課題研究発表	ハイブリッド

後援

No.	開催日	開催地	主催	催事名等	開催形式
1	9/1- 3/31	全国	(公財) 日本極地研究振興会	南極・北極 SDGs 探究学習コンテスト	コンテスト
2	8/23- 3/31	全国	(公財) こども教育支援財団	第 14 回環境教育ポスターコンクール	コンクール
3	3/4- 3/18	宮城県 三重県 福岡県	(公財) 五井平和財団	令和 4 年度ローカル SDGs キャンパス・ミーティング	対面

活動支援・協力

No.	開催日	開催地	主催	催事名等	開催形式
1	5/18	山形県 鶴岡市	鶴岡食文化創造都市 推進協議会	食と食文化を活用した ESD 研修会	対面
2	8/31	—	山形県教育センター	ESD、SDGs の授業づくり講座	オンライン
3	8/31	青森県 八戸市	八戸工業大学第二高 等学校	八戸工業大学第二高等学校 SDGs 学習会	対面
4	1/17	—	山形県教育センター	令和 4 年度山形県高等学校初任者研修 第 6 回県教育センター研修	オンライン
5	1/25	宮城県 蔵王町	宮城県蔵王町・蔵王 町体験交流活動推進 協議会、(公社)宮 城県観光連盟・みや ぎ教育旅行等コー ディネート支援セン ター	蔵王町教育旅行セミナー	対面

催事・会議等参加

No.	開催日	開催地	主催	催事名等	開催形式
1	11/18	福島県 只見町	只見町教育委員会	令和 4 年度 只見町 ESD 公開授業研究会	対面

その他

(公社)宮城県観光連盟が発行する「宮城県教育旅行ガイドブック」のSDGs 探求学習特化型プログラムに東北地方 ESD 活動支援センターが掲載された。



その他相談対応

- ・企画への助言
 - ・講師紹介
 - ・広報協力
 - ・情報提供、事例紹介
- 相談対応件数 19 件
等 対話の機会数 44 件

食と食文化を活用した ESD 研修会

鶴岡市食文化創造都市推進協議会

開催日は「食と食文化創造都市」(SDGs 6.3 目標)の建設を受けており、人口減少、高齢化という社会課題の解決に向けて取り組む中で ESD の活用が重要とされています。その実現には ESD の活用が重要とされています。一般的には ESD という概念が広く知られていない現状にあります。

本研修会では、ESD の概念に「食文化」をテーマとして、一歩先を踏み出すための ESD の活用方法を考え、視察などを行います。併せて、参考となる事例「取組の紹介」を通して、今後の取組に役立てていただくことを目指します。

* ESD (Education for Sustainable Development) 「持続可能な開発のための教育」と訳されます。

【日程】令和 4 年 5 月 19 日 (木) 15:00~16:30

【会場】鶴岡アートフォーラム 大会議室 (鶴岡市馬場町 13-3)

※オンライン受講も可能です。

【第一部】講演
演題 「持続可能な社会をつくるためのユネスコの活動」(仮題)
講師 仙台ユネスコ協会 会長 見上一幸 氏

【第二部】研修会
題材 「食と食文化を活用した ESD について」

【参加費】無料 ※申込が必要です。

【定員】会場受講…先着 30 名 オンライン受講…制限なし

【申込】申込書に記載の上、FAX またはメールで送信ください。 申込締切 5 月 16 日 (月)

※オンライン受講をお申込みの方は前日までに Zoom ミーティングコードをお送りします。

【主催】鶴岡食文化創造都市推進協議会

【協力】東北地方 ESD 活動支援センター

【お問い合わせ】鶴岡市食文化創造都市推進協議会事務局
(鶴岡市食文化創造都市推進協議会) 0235-35-1185

食と食文化を活用した ESD 研修会 (5/18)
【主催】鶴岡食文化創造都市推進協議会

2022年度 コンソーシアム 第1回SDGsセミナー

ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムは、2014年に設立し、東北地方の ESD/SDGs 推進のために、積極的に活動しています。
<http://es269206.xsrv.jp/ou/boards/>

2022年度ユネスコ活動補助金事業の一環として、セミナーを開催し、教員・学校・地域間での情報の共有を行いたいと思います。

本年度の研究課題「教育・学校・地域社会の相互関係の再構築」に基づき「ESD/ユネスコスクール」の資源と評価方法の提供(若手教員の継続研修)

【日程】2022年8月6日(土) 13:00~15:30

【会場】宮城教育大学 4号館430号教室

【対面型】(前費金あり)で行うとともにオンラインでハイブリッド開催

【プログラム】

1. ディスカッション: SDGs 学校実践の導入を促すために(宮城教育大学)。
2022年度ユネスコ活動補助金事業の一環として、セミナーを開催し、教員・学校・地域間での情報の共有を行いたいと思います。
2. 東北地方各地域団体からの本年度前期活動のレクレーション
青森、秋田、宮城(大増地、気仙沼、山形、福島、福島など(予定))
3. 個々の教員による本年度の実践活動の振り返り
※本年度は、教員・学校・地域の相互関係の再構築というテーマで、相互の取組にコメントしあう。活動の活性化を図ります。

【申込み方法】
1. 申込書、2. 氏名、3. 連絡先を郵送にて、下記連絡先までお送りください

【主催】ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム

【会場】東北地方 ESD 活動支援センター

【申し込み先】ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム事務局 (宮城)
メール: esd@esd-net.org
TEL & FAX: 022-214-3381

第1回 SDGs セミナー (8/6)
【主催】ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム

共催: 宮城県・蔵王町・蔵王町体験交流活動推進協議会
(公社)宮城県観光連盟・みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター

蔵王町 教育旅行受入セミナー

教育旅行のいまと背景を学び、子どもたちを受け入れてみませんか?

四季折々の豊かな自然の恵まれた蔵王町は、様々な学びや体験ができる場でもあります。このたび、次世代を担う子どもたちの生きる力を、地域社会みんなで育てていく、教育旅行の受入について学びを実施します。いまの教育現場と背景をふまえて、経験豊富な講師による講話とパネルディスカッションを2回にわたって行います。是非お気軽にご参加ください。

【第1回】講話
令和4年 1/25 (水)
子どもたちが地域で学ぶこと
子文化の新しい時代、産化する子どもたち、重要な役割を果たす地域、子どもたちは、何を学び、どんな力を身につけていくのでしょうか。

【第2回】パネルディスカッション
令和4年 2/2 (木)
教育旅行・産業 それぞれのカタチ
産業体験による教育旅行の受入を行う際の課題の克服、受入に協力をしてくれる、持続可能な受入のためのポイントなどを話し合えます。

【会場】蔵王町ふるさと文化会館
【時間】13:30~15:30
(会場と時間とも同じです)

問い合わせ先 蔵王町観光観光課 0224-33-2215

蔵王町教育旅行セミナー (1/25)
【主催】宮城県蔵王町・蔵王町体験交流活動推進協議会、(公社)宮城県観光連盟・みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター



食と食文化を活用した ESD 研修会 (5/18)



ユネスコスクール東北ブロック大会 (12/17)



気仙沼 ESD/RCE 円卓会議 2022



ユネスコスクール東北ブロック大会 (12/17)

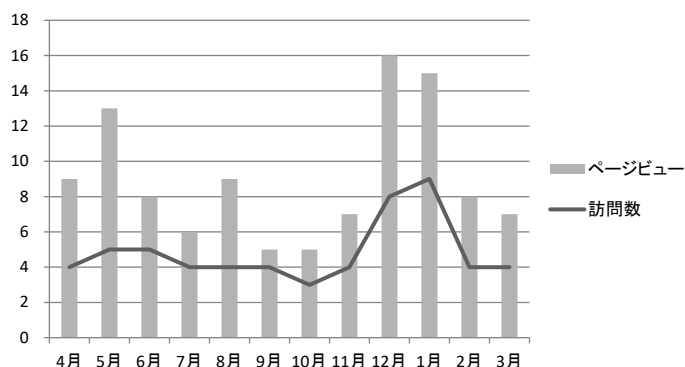
② ESD 活動に関する域内情報の収集及び域内外への情報提供（仕様書番号 4-(2)-ウ）

●情報収集

学校現場では ESD 型の探求授業の在り方を模索していることから、関係者へのヒアリングおよび情報収集に努めた。また、企業における人材育成や ESD に関心のある青年会議所やユネスコ協会等、多様な主体との情報交換を行った。

ウェブサイト

ウェブサイトアクセス数 1 日平均 19.3 件



※メールマガジンは EPO 東北事業報告（P32）を参照

●情報発信

ウェブサイトおよびメールマガジンを活用し、環境活動や ESD、SDGs に関する情報の他、関係機関の動向、公募や助成金情報等の発信に努めた。主催事業においてはオンライン催事においては演出や構成を工夫し動画記録を配信するなど、発信の試行に取り組んだ。



③ 地域循環共生圏への協力及び全国センターとの連携協力の推進等（仕様書番号 4-(2)-エ）

③-1. 全国センター企画運営委員会

催事名	第 1 回 ESD 活動支援企画運営委員会
開催日	R4/6/23（木）
開催形式	オンライン会議
内容	(1) ESD 活動支援センター 2021 年度事業報告 (2) ESD 推進支援センター 2022 年度事業について

催事名	第 2 回 ESD 活動支援企画運営委員会
開催日	R5/3/2（木）
開催形式	オンライン会議
内容	(1) ESD 活動支援センターの本年度主要事業について（報告） (2) 気候変動を切り口とした ESD の今後の進め方について (3) 2023 年度 ESD 活動支援センター活動計画案について



第 1 回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会（6/15）

③-2. ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会

催事名	第 1 回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会
開催日	R4/6/15（水）
開催形式	ハイブリッド
会場	青山ブックセンター大会議室（東京都渋谷区）
内容	(1) 情報共有 ・ ESD をめぐる最新の動向について（文科省） ・ 地域脱炭素に向けた人材育成について（環境省） (2) 全国センターの事業について (3) 地域センターの事業予定について (4) 地域 ESD 拠点アンケートの共有等 (5) 気候変動教育に関する共有・議論

催事名	第 2 回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会
開催日	R5/1/23（月）
開催形式	ハイブリッド
会場	GEOC（東京都渋谷区）
内容	(1) 2023 年度環境省・文部科学省の施策の方向性について (2) 気候変動教育コンセプトペーパー最終案について (3) 次年度以降のセンター・ネットワークの活動について (4) ESD for 2030 学び合いプロジェクトと全国フォーラム報告 (5) 各センターの活動を記載したマトリクスの共有・議論

③ -3.ESD 全国フォーラム

催事名	ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2022 実践的・包括的な SDGs 人材育成を目指して～気候変動教育からはじめよう～	
開催日	R4/12/10(土)	
開催形式	ハイブリッド	
会場	国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟小ホール(東京都渋谷区)	
参加者	238名(会場74名、オンライン164名)	
主催	ESD 活動支援センター、文部科学省、 環境省	
内容	(1) 貴重報告 ①文部科学省 「国内外におけるグリーンングを含めた ESD の推進」 ②環境省 「ESD・人材育成関連施策の最新動向及び気候変動教育への期待とこれまでの実績」 (2) セッション1 「気候変動を切り口とした ESD の推進」 【報告】北海道地方 ESD 活動支援センター 久保田学氏 【モデレーター】NPO 法人「環境・持続社会」研究センター事務局次長 遠藤理紗氏 (3) セッション2 「気候変動や脱炭素をテーマにした地域事例紹介」 【モデレーター】 武蔵野大学工学部 教授 白井信雄氏 【報告】 東北 地方 大仙市立大曲南中学校校長 島田智氏 (一社)あきた地球環境会議 理事・事務局長 福岡真理子氏 近畿 地方 比叡山高等学校 教諭 伊藤由季氏 滋賀県地球温暖化防止活動推進センター、公益財団法人淡海環境保全財団 来田博美氏 四国 地方 香川県中小企業家同友会副代表理事、島田治男建築設計事務所 所長 島田治男氏 四国地方 ESD 活動支援センター 常川真由美氏 (4) 全体総括 「気候変動時代の ESD をどう進め、広げるか」 【進行】公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 国際交流部長 進藤由美氏 【コメンテーター】 遠藤理紗氏 白井信雄氏 環境省	



ESD 全国フォーラム (12/10)



ESD 全国フォーラム (12/10)

③ -4.ESD 全国ネットワーク団体意見交換会

催事名	ESD 全国ネットワーク団体意見交換会
開催日	R4/9/12（月）
開催形式	対面
会場	地球環境パートナーシッププラザ （東京都渋谷区）
主催	ESD 活動支援センター（全国）、 北海道地方 ESD 活動支援センター
内容	(1) 趣旨説明・ESD ネットワークの動き (2) 参加者による活動紹介（3 分× 20 団体） (3) 気候変動教育の展開に向けて 1) 趣旨説明 2) 脱炭素を始めとする「経済社会のリデザイン」と人材育成（環境省） 3) 気候変動教育に関する取組報告・情報提供 ①国立環境研究所社会対話・協働推進オフィス ②国立環境研究所気候変動適応センター ③一般社団法人地球温暖化防止全国ネット ④日本環境教育学会気候変動教育研究会 ⑤一般社団法人環境政策対話研究所 4) 意見交換



ESD 全国ネットワーク団体意見交換会（9/12）

③ -5.ESD 推進ネットワーク可視化タスクフォース

催事名	ESD 推進ネットワーク可視化タスクフォース第 3 回会合（拡大版）
開催日	R4/10/17（月）
開催形式	ハイブリッド
会場	地球環境パートナーシッププラザ （東京都渋谷区）
内容	【議題】 ESD センターネットワークで取り組む気候変動教育について (1) これまでの議論の振り返り (2) 気候変動教育コンセプトペーパー（案）解説・意見交換 (3) 3 地域（東北・近畿・四国）の事例紹介・意見交換 (4) 「学び合いプロジェクト」の活用とマトリクス解説・意見交換 (5) 事務連絡・情報共有
備考	第 3 回会合は地方 ESD センターも参加し意見交換を行う場として開催された。 【タスクフォース委員】 北海道地方 ESD 活動支援センター 久保田学氏 東京都市大学大学院環境情報学研究科教授 佐藤真久氏 株式会社エンパブリック代表取締役 広石拓司氏 中国地方 ESD 活動支援センター 松原裕樹氏

③ -6. 環境省環境教育推進室 意見交換

催事名	環境省環境教育推進室 意見交換
開催日	R4/10/25（火）
開催形式	ハイブリッド
会場	東北地方 ESD 活動支援センター （宮城県仙台市）
内容	東北地方 ESD 活動支援センター事業に関する意見交換



只見町 ESD 公開授業研究会（11/18）



八戸工業大学第二高等学校 SDGs 学習会（8/31）

④地域 ESD 活動推進拠点等の ESD 活動の支援（仕様書番号 4-(2)-オ）

●地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）について

ESD 推進ネットワーク※の趣旨に賛同して地域の ESD を支援する組織や施設に登録いただく登録制度で、地方センターのパートナーとして、「ESD 推進ネットワーク」の中で中核的な役割を果たすことが期待されている。

※ ESD 推進ネットワーク：ESD の広がりや深まりを通じて地域の諸課題の解決と教育の質の向上、持続可能な社会づくりを目指す SDGs 達成に向けた意識、行動変革を進めることを目指している。

〔構成〕 ESD 活動支援センター
地方 ESD 活動支援センター（8 カ所）
地域 ESD 拠点



●地域 ESD 拠点間の連携等

- (1) ESDfor2030 学び合いプロジェクト（P64 参照）
- (2) ESD 地域研修会（P66 参照）

●〔全国〕登録団体 173 件（R5/1/4 現在）

●〔東北〕登録団体 20 団体（R3 年度：16 団体）

NO.	県	団体名
1	青森	NPO 法人 青森県環境パートナーシップセンター
2		八戸工業大学第二高等学校・附属中学校
3		青森市教育委員会 【R4 新規登録】
4		青森市立千刈小学校 【R4 新規登録】
5		青森市立堤小学校 【R4 新規登録】
6	岩手	NPO 法人環境パートナーシップいわて
7	宮城	（公財） みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
8		（公社）仙台ユネスコ協会
9		気仙沼 ESD / RCE 推進委員会
10		（一社）日本キリバス協会
11		りーふ 26 【R4 新規登録】
12	秋田	（一社）あきた地球環境会議
13		認定 NPO 法人 環境あきた県民フォーラム
14	山形	NPO 法人環境ネットやまがた
15	福島	NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク
16		福島工業高等専門学校
17		只見町教育委員会
18		会津ユネスコ協会
19		いわきユネスコ協会
20		（独）国立青少年教育振興機構 国立那須甲子青少年自然の家

●事業総括

【成果】

- ・過年度から継続してきた青森県内での ESD 活動支援が発展し、3 件の地域 ESD 拠点登録につながった。
- ・東北地方 ESD 活動支援センター設置当初から既存のネットワークである「ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム」との連携・協働が課題となっていたが、互いの事業に連携する体制へと変化した。

【課題】

- ・EPO 東北事業と同様に、事業の共催や後援・活動支援の件数が大きく減少した。また、地域ニーズを把握し事業の種を発掘するためのヒアリングやネットワーク拡充に向けた掘り起こしが実施できていない。
- ・ウェブサイトへの活動報告を掲載するにあたり、機能上の制約があり EPO 東北ウェブサイトと連結させる対応とした。またコンテンツを見直すことは業務量の増加が懸念されることから本年度の対応は見送ることとした。
- ・外部リソースを活用し、業務量の削減を図ることが求められる。



気仙沼 ESD/RCE 円卓会議 2022



ESD 地域コーディネーター打合せ（6/21）

3) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供

① ESDfor2030 学び合いプロジェクトの実施（仕様書番号 4-(2)-カ）

●プロジェクト概要

第2期 ESD 国内実施計画（2021 年 5 月に策定）の中で位置づけられた「テーマ別の学び合いの仕組み」として実施するもので、全国 8 か所の地方 ESD 活動支援センターがブロックごとに地域の課題やセンターの強みを活かしてテーマを設定し、プロジェクトを運営する。様々な主体が地域を超えて参加し、相互の学び合いや実践活動を通して各主体の活動の向上を図るとともに、得られた知見を活かし同様の取組みを全国に広めていくことを目的としている。

●事業目的

- ・東北地方 ESD 活動支援センターと地域 ESD 活動推進拠点が連携して地域（教育機関）を支援するモデルを創出する。
- ・地域 ESD 拠点および ESD 実践者に対する学び合いの機会を提供し、ESD 活動の底上げを図る。
- ・プロジェクトの整理分析を行い、ESD を実践する際に重要となる要素を明らかにする。

●事業プロセス

	東北地方 ESD 活動支援センター	ESD 推進ネットワーク
4 月	○企画打合せ ○企画調整	
5 月		
6 月		○連絡会で情報共有
7 月	●勉強会①	
8 月	●勉強会②	
9 月		
10 月	●実践活動	○可視化 TF で東北の取り組みを事例紹介
11 月		
12 月	●勉強会③意見交換会	●ESD 全国フォーラムで事例発表

※ TF：タスクフォース

●達成目標

- ・「気候変動教育」の東北モデルを創出する。単発の授業に留まらず、事前学習・事後学習を含めた探求型のプログラムと、実施のための連携・支援のあり方を整理し、課題を明らかにする。
- ・東北地方 ESD 活動支援センターと地域 ESD 活動推進拠点および、地域 ESD 拠点同士が連携する事例を創出する。
- ・地域 ESD 拠点および ESD 実践者がノウハウや知見を共有し、ESD の理解や自身の活動のブラッシュアップが図られる。

●EPO 東北のアプローチ

- ・地域 ESD 拠点との連携によるプロジェクトの実施を支援した。
- ・ESD に取り組む実践者の協力を得て評価・分析を行うと共に、東北地方における ESD ネットワークの活用とつながりを強めることを意識した。



勉強会①キリバス講演（7/4）



勉強会①キリバス講演（7/4）

●関係者名簿

実践校	大仙市立大曲南中学校（秋田県大仙市）	
地域 ESD 拠点	（一社）あきた地球環境会議	
	（一社）日本キリバス協会	
勉強会メンバー （敬称略）	氏名	所属・役職
	浅野亮	気仙沼市・宮城教育大学連携センター 主任運営員 東北地方 ESD 活動支援センター 企画運営委員
	阿部 大輔	秋田県立新屋高等学校 教諭
	市瀬智紀	宮城教育大学教員キャリア研究機構 教授 東北地方 ESD 活動支援センター 企画運営委員
	貝森毅彦	青森県（市）地球温暖化防止活動推進員 東北地方 ESD 活動支援センター 地域コーディネーター
	ケンタロ・オノ	（一社）日本キリバス協会 代表理事
	齋藤修一	只見町教育委員会 元教育長 東北地方 ESD 活動支援センター 企画運営委員 東北地方 ESD 活動支援センター 地域コーディネーター
	東海林 拓郎	秋田県立能代高等学校 教諭 （一社）あきた地球環境会議 理事
	島田 智	大仙市立大曲南中学校 校長
	高田 研	都留文科大学 特任教授 （一社）全国地球温暖化防止ネット 理事長 関東地方 ESD 活動支援センター 企画運営委員長
	福岡 真理子	（一社）全国地球温暖化防止ネット 理事 （一社）あきた地球環境会議 理事・事務局長 東北地方 ESD 活動支援センター 企画運営委員
	見上 一幸	（公財）仙台ユネスコ協会 会長 宮城教育大学 名誉教授 / ESD 学会 会長 東北地方 ESD 活動支援センター 企画運営委員長

ESD for 2030 学び合いプロジェクト
東北モデルプログラム「ワールド・気候スタディズ ESD/SDGs」

開催概要

催事名	勉強会①キリバス講演	
開催日	R4/7/4（月）	
開催形式	対面	
会場	大仙市立大曲南中学校（秋田県大仙市）	
参加	中学生1～3年生71名（全校生徒） 教員、オブザーバー（教育委員会、市内中学校教員）9名	
内容	【聞く】	(1) 講演会 「SDGs ってなに？ ～僕の国キリバスから見えること～」 （一社）日本キリバス協会 ケンタロ・オノ氏
	【話し合う】	(2) ペルソナ（変身）ワークショップ （一社）あきた地球環境会議 福岡真理子氏



【補足】

キリバス共和国：ギルバード諸島、フェニックス諸島、ライン諸島の3つの諸島群からなる赤道直下の国。広大な水域に33の島（環礁）が散在している。海拔3.5mを超える島はほとんどなく、気候変動による海水面の上昇が日常生活に影響を及ぼしている。

ペルソナ（仮面）ワークショップ：大人になった自分を想像して校長や市長になりきり、大仙市とキリバスのためにできることを考えるワークショップ。

催事名	勉強会②関係者勉強会
開催日	R4/8/1（月）
開催形式	対面
会場	秋田拠点センターアルヴェ（秋田県秋田市）
参加	ESD 関係者 17 名（P60 名簿参照）
内容	【整理】 (1) 勉強会①共有と振り返り (2) 意見交換 <<論点>> ・生徒が「より深く考える」授業を行うために ・生徒の行動変容を促すしかけ ・国際交流を通して生徒が得る学びとは ・ESD 授業として大事な要素について 【評価】



勉強会①キリバス講演（7/4）

催事名	実践活動 オンライン交流授業
開催日	R4/10/26（水）
開催形式	対面
会場	大仙市立大曲南中学校（秋田県大仙市）
参加	大仙市立大曲南中学校 3 年生 29 名 キリバス共和国セントルイス中学校 2 年生
内容	【知る・話す】 (1) 互いに自国を英語で紹介 (2) 英語による取組みスピーチ (3) 文化交流クイズ 【考える】 (4) 意見交換 気候変動をテーマにした質問
メディア掲載	秋田テレビ 10/26 放送 キリバスニュースター紙 10/28 号



勉強会②関係者勉強会（8/1）



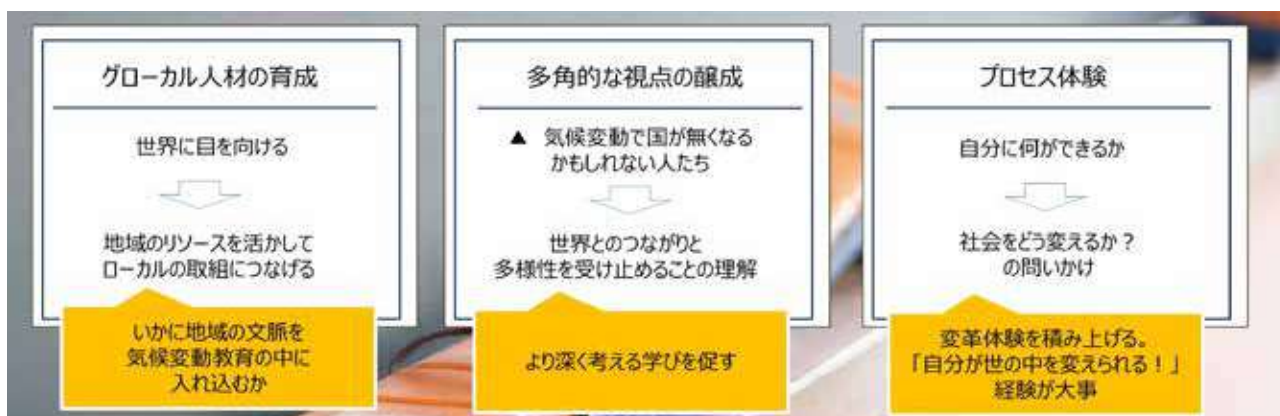
オンライン交流授業（10/26）

催事名	勉強会③意見交換会
開催日	R4/12/5（月）
開催形式	対面
会場	オンライン会議
参加	ESD 関係者 19 名
内容	【整理】 (1) 勉強会①共有と振り返り (2) 意見交換 <<論点>> ・生徒が「より深く考える」授業を行うために ・生徒の行動変容を促すしかけ ・国際交流を通して生徒が得る学びとは ・ESD 授業として大事な要素について 【評価】



勉強会③意見交換会（12/5）

●「気候変動教育」の視点の整理



●事業総括

【成果】

- 学校との調整を地域 ESD 拠点が担うことでプログラムが実現できた。また、学校の多大な協力により生徒や教員の変容も共有され、ESD の視点からプログラムを整理・分析することができた。
- 広く関係者が集い活動を評価する機会を設けたことで、知見の共有、関係者のモチベーション向上や活動の活性化につなげることができた。また、気候変動教育の課題と取組み方、東北地方ESD活動支援センターの役割が整理された。

【課題】

- 海外の学校との交流型授業においては現地とのコーディネーションや、現地との文化・認識の差異を補うコーディネーターの存在が鍵となる。交流を継続させることの重要性が指摘される一方で、人材や資金面が大きな課題となる。
- モデルプログラムの汎用化のためには内容の縮小化が欠かせない。
- 数回の勉強会、実践活動、意見交換の3つのプログラムで構成する事業のため、数か月間にわたる事業展開となり業務負担が大きい。外部リソースを活用した業務負担の軽減が課題となる。



オンライン交流授業（10/26）

【参考】キリバス共和国の写真



かつては穏やかな気候、現在は気象の変化が日常生活にも影響を及ぼしている



魚が食の中心



全寮制の高校の自習の場



海岸浸食によって根が露出したヤシ

4) 東北 ESD / SDGs フォーラムの開催

①東北 ESD / SDGs フォーラムの開催（仕様書番号 4-(2)-キ）

●プロジェクト概要

ESD をより一層推進することが SDGs 達成に直接・間接につながるものと捉え、多様なステークホルダーによる相互交流の学び合いを通して、地域ネットワークの形成を構築する機会の創出を目指す。

これまでは学校での ESD や企業の ESD をテーマに取り上げてきた。メディアでの露出により「SDGs」は知られているものの社会人が ESD や SDGs を勉強する機会が少なく、「とらえ方や取り組み方がわからない」という声が多い。身近なテーマを設定することで参加者の関心を高め、ESD 活動の活性化を図る。

●事業目的

文化・スポーツ面から SDGs を考えることで多面的なとらえ方を促し、関心のある層に対して 1 人ひとりの行動変革とパートナーシップの促進を目指す。

●事業プロセス

東北 ESD / SDGs フォーラム	
5 月	○収録・配信型の企画検討
6 月	○関係者打合せ ▲企画運営委員会でハイブリッド型の提案あり ▲企画の再検討
7 月	○関係者打合せ ○企画調整
8 月	
9 月	
10 月	○企画運営委員 情報共有会
11 月	○関係者打合せ ▲オンライン配信型に企画変更
12 月	○関係者打合せ ●広報開始
1 月	○関係者打合せ ●東北 ESD/SDGs フォーラム 2022

●達成目標

- 柔軟な思考で SDGs をとらえ、ESD 活動の活性化に向けて参加者の学びが深まる。
- 文化・スポーツ面から SDGs を考えることで、暮らしや地域の中でのつながり、環境や社会とのつながりなど多面的にとらえることの重要性を学ぶ。
- 事業をきっかけに東北地方 ESD 活動支援センター及び地域 ESD 活動推進拠点の認知が進み、相談窓口や連携先として活用されること。

●EPO 東北のアプローチ

- これまで取り上げたことのないテーマを軸に SDGs を考える企画に挑戦し、参加者層の拡大と重層的なネットワークづくりを試みた。
- 各テーマを ESD / SDGs の視点から整理するにあたり、東北地方 ESD 活動支援センターの関係者に協力を仰いだ。「視点合わせ」のためテーマごとの打合せを重ねて本番に臨んだ。
- オンライン配信の特性を活かすためにメディア関係者の協力をいただきながら企画を行った。

【Message's of Supporter】

	氏名	所属
1	萌江氏	シンガーソングライター ほやアイドル
2	野原裕子氏	東京八重山古典民謡保存会教師
3	福島県只見町立只見中学校	
4	小野寺真氏	理容室ウィング代表 にじいろ CANVAS 共同代表
5	ワッキー貝山氏	フリータレント カプセルトイ研究家
6	遠藤順子氏	キャンピンストラクター (オフィス e)
7	千葉浩氏	LSC ランゲージサービスセン ター代表
8	GATTY (ガッティ) 氏	マジシャン
9	村上雅穂満(むら かみまさほみ) 氏	生田流生派邦楽会 准師範

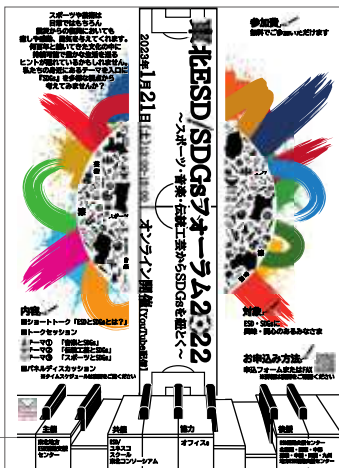


打合せ (7/26)



登壇者打合せ (12/2)

開催概要

催事名	東北 ESD/SDGs フォーラム 2022 ～スポーツ・音楽・伝統工芸から SDGs を紐とく～		
開催日	リアルタイム配信：R5/1/21（土） アーカイブ配信：R5/2/1（水）～2/28（火）		
開催形式	YouTube 配信		
会場	TKP ガーデンシティ仙台 ホール 30A(宮城県仙台市) ※登壇者および事務局は配信会場に参集		
主催	東北地方 ESD 活動支援センター		
共催	ESD / ユネスコスクール・東北コンソーシアム		
協力	オフィス e		
後援	ESD 活動支援センター、北海道・関東・中部・近畿・中国・四国・九州地方 ESD 活動支援センター		
参加	リアルタイム配信 最高視聴者数：48 名 アーカイブ配信 視聴回数：89 回		
内容	【司会】東北地方 ESD 活動支援センター 鈴木美紀子		
	ショートトーク	「ESE/SDGs とは」 東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員長 見上一幸氏	
	トークセッション① 「音楽と SDGs」	【話題提供者】	仙台フィルハーモニー管弦楽団 長谷川康氏
		【モデレーター】	青森大学社会学部教授、青森大学 SDGs 研究センター長 藤公晴氏
	トークセッション② 「伝統工芸と SDGs」	【話題提供者】	株式会社浄法寺漆産業 代表取締役社長 松沢卓生氏
		【モデレーター】	岩手県立大学研究・地域連携本部 名誉教授、地域連携コーディネーター 渋谷晃太郎氏
	トークセッション③ 「スポーツと SDGs」	【話題提供者】	株式会社ベガルタ仙台 代表取締役社長 佐々木知廣氏
		【モデレーター】	宮城教育大学 教育学部 国際教育領域 教授、ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム運営委員長 市瀬智紀氏
パネルディスカッション	【ファシリテーター】	見上一幸氏	
	【パネリスト】	トークセッション①～③の話題提供者およびモデレーター	
	総括と閉会あいさつ 市瀬智紀氏		
参加者の声	・漆がプラスチックの代わりになりうる可能性を持っていることは新しい発見でした。また、ベガルタのような企業が、中小企業という立場で生存戦略として SDGs に取り組んでいることには驚きました。 ・文化・芸術・伝統・スポーツと SDGs のつながりについて具体的にイメージできました。それぞれのテーマについてのキーワードは、まさに持続可能な社会づくりに不可欠なところだと感じました。SDGs についての見識を広げることにつながったと実感しています。 ・多角的に SDGs を捉える機会となりました。 ・音楽、伝統、スポーツなど、文化の観点から入ることの入りやすさなど、やはり提案の仕方を考えていかなければと考えさせられましたし、スタッフの皆様の動き等々、たくさん学ばせていただきました。 ・素晴らしい内容で大変勉強になりました。生涯教育視点での企業 SDGs についても、もっと知りたいと思いました。		



東北 ESD/SDGs フォーラム 2022 配信会場（1/21）



東北 ESD/SDGs フォーラム 2022（1/21）



東北 ESD/SDGs フォーラム 2022 トークセッション① (1/21)



東北 ESD/SDGs フォーラム 2022 トークセッション② (1/21)



東北 ESD/SDGs フォーラム 2022 トークセッション③ (1/21)



Message's of Supporter (1/21)



東北 ESD/SDGs フォーラム 2022 パネルディスカッション (1/21)



Message's of Supporter (1/21)

●事業総括

【成果】

- 身近な話題から SDGs を捉え直す新しい試みに取り組んだ。企画に際しては東北地方 ESD 活動支援センターの人的なネットワークを活用し、多くの関係者の協力のもとで実施することができた。
- アンケートでは多面的に SDGs を捉える機会となったことが伺える感想が寄せられた。「自分たちの取組について、地域とのつながりを考えてみようと思った」との回答も得られ、目標を達成することができた。
- 取組事例と合わせて「どのような考え方で取り組んでいるか知りたい」というニーズが高いことが把握できた。次年度以降の企画の参考としたい。

【課題】

- 企画運営委員から対面型の交流を求める意見が寄せられたが、感染拡大とインフルエンザ同時流行の懸念からオンライン配信型とした。開催形態の変更に伴い企画調整が遅れる等の影響が出た。規模の大きい催事での判断が難しく、引き続き東北地方環境事務所と協議のもとで判断をしていきたい。
- リアル配信時の視聴者が想定より少なかった。またオンラインアンケートの回収率が低い。オンライン型の催事が定着する中で、広報の仕方は工夫と改善が求められる。

5) ESD 活動に関するネットワークの構築

① ESD 地域研修会の実施 (仕様書番号 4-(2)-ク)

●プロジェクト概要

ESD 地域研修会は東北地方 ESD 活動支援センター独自の取り組みで、今後活動を広げていきたい種となる地域の取組を応援するため、ESD 実践者や地域 ESD 拠点等、東北地方 ESD 活動支援センターのネットワークを活用して実施する。地域の関係者に対して学びの機会を提供し、ESD 活動の促進と活性化を図り、活動のすそ野を広げる。

●達成目標

- ・地域 ESD 活動推進拠点の連携によって ESD 推進の底上げと活性化を図ることを目的に、地域の ESD 実践者を対象に研修会等を実施する。
- ・ESD 地域コーディネーターが活動で得た、地域の課題とニーズに対してアプローチできる企画を連携して検討・実施する。

●事業目的

- ・東北では本年度、地域 ESD 拠点の登録団体数が 20 団体となった。地域 ESD 拠点と東北地方 ESD 活動支援センターの連携や、地域 ESD 拠点間の連携モデルを創出する。
- ・東北内で活動する ESD/SDGs の実践事例や実践者を発掘し、ネットワークを構築する。

●EPO 東北のアプローチ

- ・ESD や SDGs に関する相談から生まれた事業に対して、地域 ESD 拠点との連携による実施を行った。
- ・地域 ESD コーディネーターの活動と連動させ、新規の地域 ESD 拠点を含めたプログラムを検討した。

●事業プロセス

	会津ユネスコ協会	大仙市立 大曲南中学校	ESD 実践校交流会	宮城県内環境施設と の意見交換	山形市立 千歳小学校
4月	○企画打合せ				
5月					
6月					
7月	○企画打合せ ○企画調整				○ヒアリング
8月	●講演会【中止】 ※感染拡大のため				
9月		○企画調整			
10月			○企画打合せ ○企画調整		
11月		●ワールドピース ゲーム			
12月			○企画打合せ	○企画打合せ	○企画打合せ ○企画調整
1月			●交流会	○企画調整	
2月				●意見交換会	●講演会

① -1. 秋田県大仙市立大曲南中学校ワールドピースゲーム

開催概要

催事名	大仙市立大曲南中学校ワールドピースゲーム
開催日	R4/11/14（月）～ 18（金）
開催形式	対面
会場	秋田県大仙市立大曲南中学校（秋田県大仙市）
参加者	中学3年生 29名
主催	大仙市立大曲南中学校
共催	東北地方 ESD 活動支援センター （一社）あきた地球環境会議
講師	（一社）ワールドピースゲーム・ジャパン 認定ファシリテーター 望月理奈氏
ゲーム概要	ワールドピースゲーム 【概要】課題解決型シミュレーションゲーム。 参加者は仮想の4カ国の内閣と国際機関のリーダー等の役割を持ち、複雑に絡み合う自らの国と世界の課題解決を目指して様々な交渉を試みる。 【ゲームの勝利条件】 ①すべての問題を解決すること ②すべての国の資産がスタート時より増えていること 【所要時間】1日3時間×5日 【実施団体】 （一社）ワールドピースゲーム・ジャパン
内容	1日目：ゲームのルール・各国状況の説明、役割とチーム決め 2日目：課題の説明 3日目：交渉・宣言を行いながら全ての課題解決と各国の資産増加を目指す 4日目：交渉・宣言を行いながら全ての課題解決と各国の資産増加を目指す 5日目：交渉・宣言を行いながら全ての課題解決と各国の資産増加を目指す。ゲーム終了、各賞投票・表彰、振り返りシート記入
総括	- 本ゲームでは大人に指示されて動くのではなく自分で考えて行動することが求められる。1人ひとりが首相、国務大臣など役職を与えられたことで主体的に参加する様子が見られ、教員からは「普段はリーダーを担うようなタイプではない生徒の活躍がみられ、良い経験になったと思う」と振り返りがあった。 5日間のプログラムを経て、世界情勢について「関心が高まった」と生徒全員が回答した。



ワールドピースゲーム (11/14-18)



ワールドピースゲーム (11/14-18)



ワールドピースゲーム (11/14-18)



ワールドピースゲーム (11/14-18)

① -2.ESD 実践校交流会

開催概要

催事名	ESD 実践校交流会
開催日	R5/1/11（水）
開催形式	オンライン会議
参加者	18 名
主催	東北地方 ESD 活動支援センター
内容	【司会】東北地方 ESD 活動支援センター 小泉照
取組紹介	福島県只見町立明和小学校
①	三瓶亜衣教諭、鈴木美結教諭
取組紹介	青森県青森市立千刈小学校
②	坪田典子教諭
取組紹介	青森県青森市立堤小学校
③	藤田久美子教諭、宮川かおり教諭、東秀一教諭
感想／質疑応答	【ファシリテーター】 ESD 地域コーディネーター 貝森毅彦氏、齋藤修一氏
まとめ	齋藤修一氏
総括	- 校内学習、体験学習、調べ学習の異なる 3 つの学習形態から ESD や SDGs につながる学びの展開について取り組み紹介があり、地域との関わりや学年間の関わりなど、様々な視点から意見交換を行うことができた。 - 参加者からは「他校の実践を聞けることは貴重な機会であり勉強になった」「これからの活動の励みになった」と感想が寄せられた。



青森県青森市



ESD 実践校交流会（1/11）

① -3. 宮城県内環境施設との意見交換会

開催概要

催事名	宮城県内環境施設との意見交換会
開催日	R5/2/14（火）
開催形式	対面
会場	仙台市たまきさんサロン（宮城県仙台市）
参加者	7 名
	宮城県環境情報センター 仙台市たまきさんサロン 東北地方 ESD 活動支援センター 東北地方環境事務所
主催	東北地方 ESD 活動支援センター
内容	(1) 話題提供 (2) 各施設の活動状況について (3) 意見交換
総括	- H27 年度～H30 年度まで意見交換会を実施していた。宮城県環境情報センター、仙台市たまきさんサロンからそれぞれ要望があり開催に至った。 - 新型コロナウイルス感染症の蔓延下での対応や ESD を意識した講座企画、今後の方向性について情報交換を行った。 - 参加者からは「有益な情報交換ができた、ぜひ今後も定期開催してほしい」と感想が寄せられており、今後も ESD をテーマに意見交換の機会を設けるとともに事業連携について検討する。仙台市たまきさんサロンとは R5 年度に事業連携を行う予定で計画を進める。



福島県只見町



宮城県内環境施設との意見交換会（2/14）

① -4. 山形県山形市立千歳小学校キリバス講演会

開催概要

催事名	山形県山形市立千歳小学校キリバス講演会
開催日	R5/2/21（火）
開催形式	対面
会場	山形市立千歳小学校（山形県山形市）
参加者	6年生 41名
主催	東北地方 ESD 活動支援センター
内容	講演会 「平和の反対って戦争だけ？ ～キリバス共和国と地球温暖化そして SDGs～」 （一社）日本キリバス協会 ケンタロ・オノ氏
総括	・千歳小学校では6年生の総合的な学習で「平和教育」を取り上げ、1年間かけて広島との交流や山形県の戦争の歴史から平和とは何かを考える授業に取り組んできた。戦争以外の視点から平和を考える試みについて相談があり、気候変動を題材に講演会を行った。 ・講演ではキリバス共和国の人々の生活の様子や文化、2050年危機といわれる気候変動の影響や水・食料問題を紹介した。気候変動による影響を理解し、自分に何かできるのか考え、行動に移してほしいとメッセージが伝えられた。 ・生徒からは「遠い世界の話ではなく、自分にもできることがあると感じた」と感想があり、教員からは「平和を多様な視点から捉えるきっかけになった」と感想が寄せられた。



山形県

山形県山形市



千歳小学校キリバス講演会（2/21）



会津ユネスコ協会打合せ（5/10）

●事業総括

【成果】

- ・地域 ESD 拠点や ESD 地域コーディネーターとの連携により、現場からの相談、ニーズに沿った内容で企画・実施することができた。
- ・ESD 地域研修会は 1 地域での開催を想定していたが、各所から相談が寄せられて計 4 つの事業を実施するに至った。全体の相談件数は減少傾向にあるものの、ESD 活動の実施・連携に関する具体的な相談が寄せられ、事業連携につなげることができた。
- ・地域 ESD 拠点や ESD 地域コーディネーターとの連携のもと、スタッフの負担が少ない形で事業を実施できた。

【課題】

- ・会津地方での企画は感染症の拡大を受けて中止となった。地域の団体が主体となって調整する対面企画の場合、オンライン開催への変更や再企画への対応が難しい。
- ・教員との交流事業では時間の制約があり、限られた時間で質の高い学びを提供できるよう、企画構成の工夫が必要となる。
- ・業務量が増加傾向にある中で相談に対してどこまで対応するのか、全体の業務量を鑑みながら判断することが求められる。

② ESD 地域コーディネーター

●「ESD 地域コーディネーター」の試行について

全国事業に関わる業務や ESDfor2030 学び合いプロジェクト等、東北地方 ESD 活動支援センター業務は増加傾向にある。対面によるヒアリングを軸に課題やニーズを拾い上げることや、地域に密着した活動の支援を行うためには担当スタッフが丁寧なコミュニケーションを行う必要がある。オンラインの打合せでは踏み込んだ意見交換には至らない課題もあり、マンパワー不足や時間の制約により支援のあり方を見直す必要があった。

R4 年度は試験的に外部リソースの活用に取り組み、地域で長年 ESD に取り組んできた人材を「ESD 地域コーディネーター」として登用した。地域のことを知り、同じ目線で ESD を考えることができる人材が直接働きかけることで、ESD 活動の底上げにつながると想定した。

また ESD 地域コーディネーターの活動を東北地方 ESD 活動支援センターがサポートすることで、支援の内容や質の向上を図ることとした。

氏名	貝森毅彦氏 青森県地球温暖化防止活動推進員、元小学校校長	齋藤修一氏 元只見町教育委員会教育長
活動地域	青森県	福島県
活動内容	- 青森市内を中心とした、小学校における ESD/SDGs に関わる授業実践、ゲストティーチャー、カリキュラム作成における助言等（関連教科：国語 / 理科 / 社会科 / 家庭科 / 総合的な学習） - 青森市小学校教育研究会理科部会への講師協力 - 地域 ESD 拠点への登録働きかけ - 東北地方 ESD 活動支援センターの周知	- 行政とのネットワーク構築、ESD 情報提供 - 福島県内の小中学校・ユネスコスクールの ESD/SDGs 取組み状況把握、連携模索 - ユネスコ協会の現状把握、連携模索 - 東北地方 ESD 活動支援センターの周知
活動に係る連携・訪問先	青森市教育委員会（地域 ESD 拠点） 青森市立千刈小学校（地域 ESD 拠点） 青森市立堤小学校（地域 ESD 拠点） 青森市立筒井南小学校 青森市立小柳小学校 青森市立佃小学校 青森市立筒井小学校 青森市立浜田小学校 青森市立大野小学校 つがる市立森田小学校 八戸市立金浜小学校 八戸工業大学第二高等学校（地域 ESD 拠点）	福島県教育委員会 福島県南教育事務所 板倉町教育委員会 只見町 只見町教育委員会（地域 ESD 拠点） 只見町立只見中学校 只見町立明和小学校 須賀川市立白方小学校 矢吹町立矢吹小学校 白河市立白川第一小学校 棚倉町立高野小学校 石川町立野木沢小学校 いわきユネスコ協会（地域 ESD 拠点） 福島県教育センター 会津ユネスコ協会（地域 ESD 拠点） いわき市教育委員会 いわき市立田人小中学校 いわき市四倉小学校
共通の活動	(1) ESDfor2030 学び合いプロジェクト 勉強会②関係者勉強会、勉強会③意見交換会への参加・助言 (2) ESD 地域研修会「ESD 実践校交流会」 ・開催に向けた打合せ（10 月・12 月 / 2 回） ・参加校との調整、打合せ ・交流会でのファシリテーター	



貝森毅彦氏



齋藤修一氏

① ESD 地域コーディネーター ミーティング

開催概要

催事名	キックオフミーティング
開催日	R4/6/21（火）
開催形式	対面
会場	EPO 東北会議室（宮城県仙台市）
参加者	7名
主催	東北地方 ESD 活動支援センター
内容	(1) ESD 地域コーディネーターについて (2) 各コーディネーターから活動の方向性の共有 (3) 全体意見交換

催事名	振り返りミーティング
開催日	R5/3/7（火）
開催形式	対面
会場	EPO 東北会議室（宮城県仙台市）
参加者	11名
主催	東北地方 ESD 活動支援センター
内容	(1) 各コーディネーターから今年度の活動報告 (2) 次年度の活動に向けた意見交換



振り返りミーティング（3/7）



貝森氏の活動、金浜小学校（青森県）での授業（9/1）

●事業総括

【成果】

【青森県】

- 青森市を中心に学校で東北地方 ESD 活動支援センターの知名度が向上し、地域 ESD 拠点登録へとつながった。

【福島県】

- 教育委員会では ESD/SDGs の認知度が低く、外部からの働きかけが必要との相談を受けて東北地方 ESD 活動支援センターと地域コーディネーターが連携して取り組むこととした。

【全体】

- 地域の事情やニーズに応じた働きかけが必要で、それぞれ地域に合わせた支援活動を展開した。これらの動きは東北地方 ESD 活動支援センター単独では難しく、地域コーディネーターとの連携によって具体的な活動支援につながった。

【課題】

【青森県】

- R4 年度は小学校を中心に ESD の支援を行った。過年度に開催した地域フォーラムでは企業や NPO 等多様なセクターの参画があったことから、今後は他分野への働きかけや連携が課題となる。

【福島県】

- 福島県内で ESD に取り組んでいる活動者の情報を把握できておらず、ネットワークをつなげるための情報収集が課題となっている。

【全体】

- ESD 地域コーディネーターとしての活動と個人の活動の整理や、東北地方 ESD 活動支援センターと一緒に目指す方向性のすり合わせ等、今後も継続するにあたっては詳細なルール整備が必要となる。

【Ⅲ. 事業報告】 4. 事業実施報告 (3) その他 企業等との協働事業

1) (独) 環境再生保全機構 地球環境基金との事業連携

① 地球環境基金主催 EPO 連絡会議

開催日	R4/8/4 (木)
開催形式	オンライン会議
内容	(1) 全国ユース環境活動発表大会について (2) 地球環境基金の 2022 年度交付決定状況について (3) 今後の EPO と地球環境基金の連携について ① 2022 年度の事業案について ② 2023 年度以降について

③ 地球環境基金との戦略会議

開催日	R4/11/16 (水)
開催形式	オンライン会議
内容	(1) EPO・地球環境基金の相互理解 (2) テーマ 1 「地域の持続可能性を高めるため、地球環境基金はどう変わっていくべきか」 (3) テーマ 2 「30 周年に向けて地域とどのように対話(タウンミーティング)していくべきか」

② 2023 年度地球環境基金助成金 オンライン説明会 (東北地区)

開催日	R4/10/5 (水)
開催形式	ハイブリッド
会場	EPO 東北 (宮城県仙台市)
参加者	11 名
主催	(独) 環境再生保全機構
企画運営	EPO 東北
内容	2023 年度環境基金助成金説明 (独) 環境再生保全機構 本多正幸氏 ① 要望書の書き方説明 ② 助成金メニューの説明 ③ 前年度からの変更点と申請システムの予告



助成金オンライン説明会 (東北地区) (10/5)

2) GreenGift 地球元気プログラム

● 事業概要

東京海上日動火災保険 (株) では、契約時に「契約のしおり (約款)」等をホームページでの閲覧をお客様に選択していただくことで紙資源の使用量削減に取り組み、削減額の一部で環境保護活動のサポートを実施している。

東京海上日動火災保険 (株) の各地域部店が、地域の環境に関する親子対象の体験活動プログラム「Green Gift 地球元気プログラム」を提供している。本事業は 10 月から翌年 9 月までを年度の区切りとし、実施地域は東京海上日動火災保険 (株) の各地域部店からの応募により、本店によって決定される。

2019 年 10 月から第 4 期が始まり、今年度で第 4 期が終了を迎えるのと同時に 2013 年から 9 年間実施された GreenGift 地球元気プログラムは第 4 期をもって終了となる。

○ 第 4 期 (2019 年 10 月～2022 年 9 月) 実施団体

青森県	小川原湖自然楽校
岩手県	(一社) いわて流域ネットワーク
山形県	やまがたヤマネ研究会

各団体の役割

主催 / 各地域の環境 NPO
共催 / 日本 NPO センター
協力 / 各地方 EPO
協賛 / 東京海上日動火災保険 (株)
後援 / 環境省

EPO の役割

① 実施団体候補の選定における情報提供と調整
東京海上日動火災保険 (株) の各地域部店が連携・協働する実施団体を選定するにあたり、各地域部店から要望等をヒアリング後、候補となり得る環境 NPO 等を選出し、情報提供を行った。

② 環境 NPO と東京海上日動火災保険 (株) 各地域部店の調整

各地域部店が実施団体の選定後、環境 NPO 等に事業の趣旨説明や参画依頼を行った。その後、環境 NPO と各地域部店が事業趣旨や実施の流れについて確認する顔合わせの場を調整した。

③ 企画・広報・実施のサポート

企画に際し、関係者の意見を反映できるよう促した。また、EPO 東北のウェブサイトやメールマガジンにて広報の協力を行った。当日は各地域部店の社員が参加するよう促し、運営スタッフとしてサポートを行った。

【GreenGift 地球元気プログラム 2022 春の全体会議】

開催日	R4/4/12（火）
開催形式	オンライン会議
内容	(1) プロジェクト終了について (2) 2021 年度上半期実施状況報告 (3) 2021 年度下半期予定共有 (4) 第 4 期プロジェクトの成果報告、意見交換

【年間振り返り全国会議】

開催日	R4/12/16（金）
開催形式	オンライン会議
内容	(1) プロジェクト 3 年目の成果報告 (2) 報告交流タイム ① 第 1 セッション：3 年目の活動紹介 ② 第 2 セッション：第 4 期 3 年間で得られたこと (3) 全体シェア 各 EPO 担当者からのコメント



「Green Gift 地球元気プログラム」とは
東京海上日動の「Green Gift」プロジェクトの一環として実施する国内環境保護活動。日本NPOセンターが主体となり、東京海上日動と国内各地の環境NPOが協力して、主に子どもたちを対象とした環境保護活動を各地で展開しています。環境保護に関する体験活動を通じて、子どもたちが身近なところから環境について考えるきっかけを持つことによって、持続可能な社会が実現することを目指しています。

協賛：日本NPOセンター、東京海上日動、環境省



「Green Gift」プロジェクトの概要

東京海上日動では「お客様とともに環境保護活動を行うこと」をコンセプトに、「Green Gift」プロジェクトを通じて地球環境保護に取り組んでいます。

- お客様に「ご契約のしおり（約款）」等を紙の冊子ではなく、ホームページ上で閲覧いただく「Web 約款」等をご選択いただくことにより、紙資源の使用量を削減。
- 紙資源使用量削減額の一部の寄付を通じて、マングローブ植林をはじめとした国内外の環境保護活動をサポート。



Green Gift 地球元気プログラムウェブサイトより



（岩手県）親子でカヌー！&水辺の安全教室（9/11）



年間振り返り全国会議（12/16）

●第4期（2019年10月～2022年9月）

実施都道府県①青森県

実施団体：小川原湖自然楽校

汽水湖である小川原湖とその周辺をフィールドに、山－川－湖－海のつながりとそこに住む生き物などの生態系を学ぶプログラムを実施した。冬（スノーシュー体験）と夏（カヌー体験）の異なる季節の中で、小川原湖とその周辺の様子を観察しながら、環境問題について考えた。

第1回	タイトル	冬の森をスノーシューで散策してみよう！
	開催日	R4/3/12（土）
	場所	青森県上北郡六ヶ所村倉内地区（青森県上北郡六ヶ所村）
	参加者	6名
第2回	タイトル	小川原湖の北部をカヌーで巡ってみよう！
	開催日	R4/9/3（土）
	場所	青森県上北郡高瀬川流域・小川原湖北部（青森県上北郡東北町）
	参加者	26名
感想（抜粋）		・冬芽の中に葉っぱがたくさん入っていることを知った。 ・冬の森は動物の足跡（ウサギ）がいっぱいあった。 ・水面に近いところを進むのが普段しないことなので、カヌーに乗ることが楽しい。 ・流されたり思ったように進まないのが楽しい。小川原湖のことを知れたのもよかった。 ・汽水湖について、場所によっての違いがあることが分かった。



（青森県）小川原湖の北部をカヌーで巡ってみよう！（9/3）

実施都道府県②岩手県

実施団体：（一社）いわて流域ネットワーク

海や河川などの水域で水難事故や水害のニュースを聞くことが多くなったが、危険な状況に遭遇した場合にどのような対応をしたらよいのか、どんな場所が危険なのか、座学と実技を通じて自分の命を守る安全教室を実施した。また水に親しむため、御所湖でのカヌー体験を実施した。

第1回	タイトル	親子で水辺体験！「中津川で環境学習と川遊び」【中止】
	開催日	R4/7/10（日）
	場所	盛岡市中の橋下流中津川河川敷（岩手県盛岡市）
	参加者	一名
第2回	タイトル	親子でカヌー！&水辺の安全教室
	開催日	R4/9/11（日）
	場所	御所湖広域公園艇庫（岩手県盛岡市）
	参加者	11名
感想（抜粋）		・カヌーが楽しかった。 ・川の安全教室で親の対処法を知ることができて良かった。 ・お父さんがカッコイイと思った。 ・親子対象の体験プログラムをもっと行ってほしい。 ・御所湖でカヌー体験ができることを初めて知った。



（岩手県）親子でカヌー！&水辺の安全教室（9/11）

実施都道府県②山形県

実施団体：やまがたヤマネ研究会

自然豊かで、多くの生き物が生息している大井沢地域で冬と春のプログラムを実施した。冬は大井沢地域に昔からある、輪かんじきを履いての雪上トレッキングやイキモノ調査、春はイキモノ観察とツリーイングを体験し、季節を感じながら自然に親しむ活動を行った。

第1回	タイトル	大井沢で雪上のイキモノ追跡&雪すべり体験
	開催日	R4/3/26(日)
	場所	大井沢自然博物館周辺 (山形県西村山郡西川町)
	参加者	親子 18 名
第2回	タイトル	大井沢で生物観察ツアー&ツリーイング体験
	開催日	R4/5/28(土)
	場所	大井沢自然博物館周辺 (山形県西村山郡西川町)
	参加者	26 名
感想 (抜粋)		- 雪の量が減っているという話を聞き地球温暖化がより身近に感じられた。 - 大井沢の自然の豊かさとそれを活かした自然学習の素晴らしさを知ることができた。 - ただの輪のように見えるかんじきをつけるだけで雪道を歩くことが驚くほど簡単になった。 - ツリーイングをまたして、動物の気持ちを味わいたい。 - このところ家族みんなすっかり出無精になり、外の空気を吸わなくなっていたのでとてもいい刺激になりました。



大井沢で雪上のイキモノ追跡&雪すべり体験(3/26)



大井沢で生物観察ツアー&ツリーイング体験(5/28)

3) 青森県 令和4年度環境配慮行動拡大モデル事業

●事業概要

環境問題に関心の薄い県民に関心を持ってもらい、環境配慮行動を実践してもらうためには動機づけが必要であるとの考えのもと、青森県が企画を公募してモデル事業を実施した。

環境の保全を図る活動を主たる目的としていない団体が配慮行動をプラスしてモデル事業を実施することにより、団体及び県民が普段行っている取り組みが環境とつながっていることを理解し、取り組みを推進することで地域における環境配慮行動の拡大につなげていくことを目的としている。

【実施団体】3 団体

団体名	事業名
津軽海峡マグロ女子会青森支部	Z 世代と一緒に！青森駅前 SDGs まちあるきツアー
アップルウェブ株式会社	リンゴ娘と未来の弘前を考えよう！
ふるさとの家保存会	築 200 年の古民家でまだ使えるモノの循環を楽しもう！！

●コーディネート業務

- ①企画提案競技における審査
- ②ワークショップでの情報提供
- ③取組み実施に関する助言
- ④アフターミーティングでの助言

●ワークショップにおけるコーディネート業務

モデル事業実施団体が取組実施にあたり、ワークショップにおいて「環境視点」や「SDGs」に関する情報提供や助言等を行った。

①アップルウェーブ株式会社	
開催日	R4/6/30（木）
場所	土手町コミュニティパーク（青森県弘前市）
内容	(1) モデル事業概要説明 (2) 環境視点・SDGs についての話題提供 (3) ワークショップ「未来に向けて環境をよくするために行動しよう宣言を考えよう」 (4) ワークショップを踏まえたモデル事業の検討 (5) 質疑応答

②ふるさとの家保存会	
開催日	R4/7/6（水）
場所	ふるさとの家（青森県五戸町）
内容	(1) モデル事業概要説明 (2) 環境視点・SDGs についての話題提供 (3) ワークショップ「2030 年の五戸町の姿を考えてみよう」 (4) ワークショップを踏まえたモデル事業の検討 (5) 質疑応答

③津軽海峡マグロ女子会青森支部	
開催日	R4/8/8（金）
場所	青森県庁（青森県青森市）
内容	(1) モデル事業概要説明 (2) 環境視点・SDGs についての話題提供 (3) ワークショップ「サステナブルなまちあるきツアーを考えてみよう」 (4) ワークショップを踏まえたモデル事業の検討 (5) 質疑応答



津軽海峡マグロ女子会青森支部ワークショップ（8/8）

●アフターミーティングにおけるコーディネート業務

取組みの振り返りを行うアフターミーティングにおいて、情報提供や助言等を行った。

①アップルウェーブ株式会社	
開催日	R4/11/16（水）
場所	土手町コミュニティパーク（青森県弘前市）
内容	(1) 取組報告 (2) 意見交換「環境配慮行動の継続・拡大に向けて」 ・参加者の反応や意見 ・これまでの活動と違う視点を入れた活動での気づき ・継続して取り組める手ごたえ ・自分たちの活動と「環境」「SDGs」 (3) 事業報告会における発表の検討

②ふるさとの家保存会	
開催日	R4/11/15（火）
場所	五戸町役場（青森県五戸町）
内容	(1) 取組報告 (2) 意見交換「環境配慮行動の継続・拡大に向けて」 ・参加者の反応や意見 ・これまでの活動と違う視点を入れた活動での気づき ・継続して取り組める手ごたえ ・自分たちの活動と「環境」「SDGs」 (3) 事業報告会における発表の検討

③津軽海峡マグロ女子会青森支部	
開催日	R4/11/16（水）
場所	青森県庁（青森県青森市）
内容	(1) 取組報告 (2) 意見交換「環境配慮行動の継続・拡大に向けて」 ・参加者の反応や意見 ・これまでの活動と違う視点を入れた活動での気づき ・継続して取り組める手ごたえ ・自分たちの活動と「環境」「SDGs」 (3) 事業報告会における発表の検討



アップルウェーブ株式会社アフターミーティング（11/16）

東北環境パートナーシップオフィス 運営第6期 令和4年度事業実施報告書（2022年度）
発行：令和5年3月31日

■東北環境パートナーシップオフィス（EPO 東北）
TEL：022-290-7179 FAX：022-290-7181
E-mail：info@epo-tohoku.jp
URL：https://www.epo-tohoku.jp

■東北地方 ESD 活動支援センター
TEL：022-393-9615 FAX：022-290-7181
E-mail：info@tohoku-esdcenter.jp
URL：https://tohoku.esdcenter.jp/

office：〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3丁目2-23 仙台第2合同庁舎 1F
OPEN 9：30－18：00（月～金）



◇運営団体◇公益財団みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）
office：〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台 5F
TEL：022-276-5118 FAX：022-219-5713
E-mail：melon@miyagi.jp
URL：https://www.melon.or.jp/index.html